

令和7年度第1回史跡小田原城跡調査・整備委員会

次 第

日 時 令和7年7月28日（月）午後1時30分
場 所 小田原市観光交流センター イベントスペース

- 1 委嘱状交付
- 2 文化部長あいさつ
- 3 委員自己紹介
- 4 委員長、副委員長選出
- 5 議事
 - (1) 報告事項
 - ア 令和6年度の事業について（資料1）
 - (ア) 工事関連事業について
 - ・文化財課所管分（資料2）
 - ・小田原城総合管理事務所所管分（資料3）
 - (イ) 史跡の公有地化事業について（資料4）
 - (ウ) その他
 - ・文化財課所管分（資料5）
 - ・小田原城総合管理事務所所管分（資料6）

イ 令和7年度の事業について（資料7）

（ア）工事関連事業について

・文化財課所管分（資料8～11）

・小田原城総合管理事務所所管分（資料12～13）

（イ）史跡の公有地化事業について（資料14）

（ウ）その他

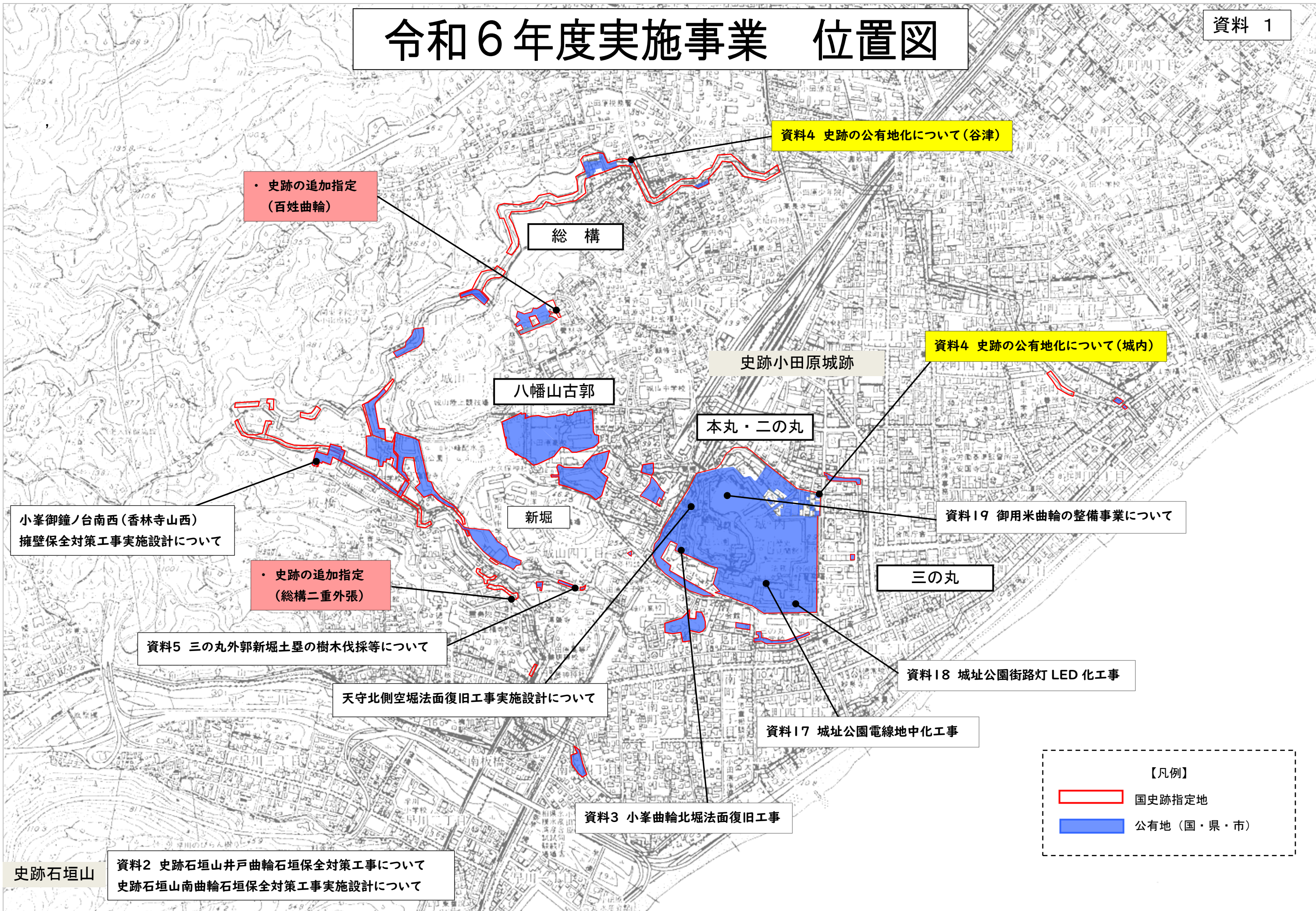
・文化財課所管分（資料15～16）

・小田原城総合管理事務所所管分（資料6、17～18）

ウ 御用米曲輪の整備事業について（資料19）

（2）その他

令和6年度実施事業 位置図



・ 史跡の追加指定
(百姓曲輪)

総構

資料4 史跡の公有地化について(谷津)

資料4 史跡の公有地化について(城内)

史跡小田原城跡

八幡山古郭

本丸・二の丸

資料19 御用米曲輪の整備事業について

小峯御鐘ノ台南西(香林寺山西)
擁壁保全対策工事実施設計について

新堀

三の丸

・ 史跡の追加指定
(総構二重外張)

資料5 三の丸外郭新堀土塁の樹木伐採等について

資料18 城址公園街路灯LED化工事

天守北側空堀法面復旧工事実施設計について

資料17 城址公園電線地中化工事

史跡石垣山

資料2 史跡石垣山井戸曲輪石垣保全対策工事について
史跡石垣山南曲輪石垣保全対策工事実施設計について

資料3 小峯曲輪北堀法面復旧工事

【凡例】

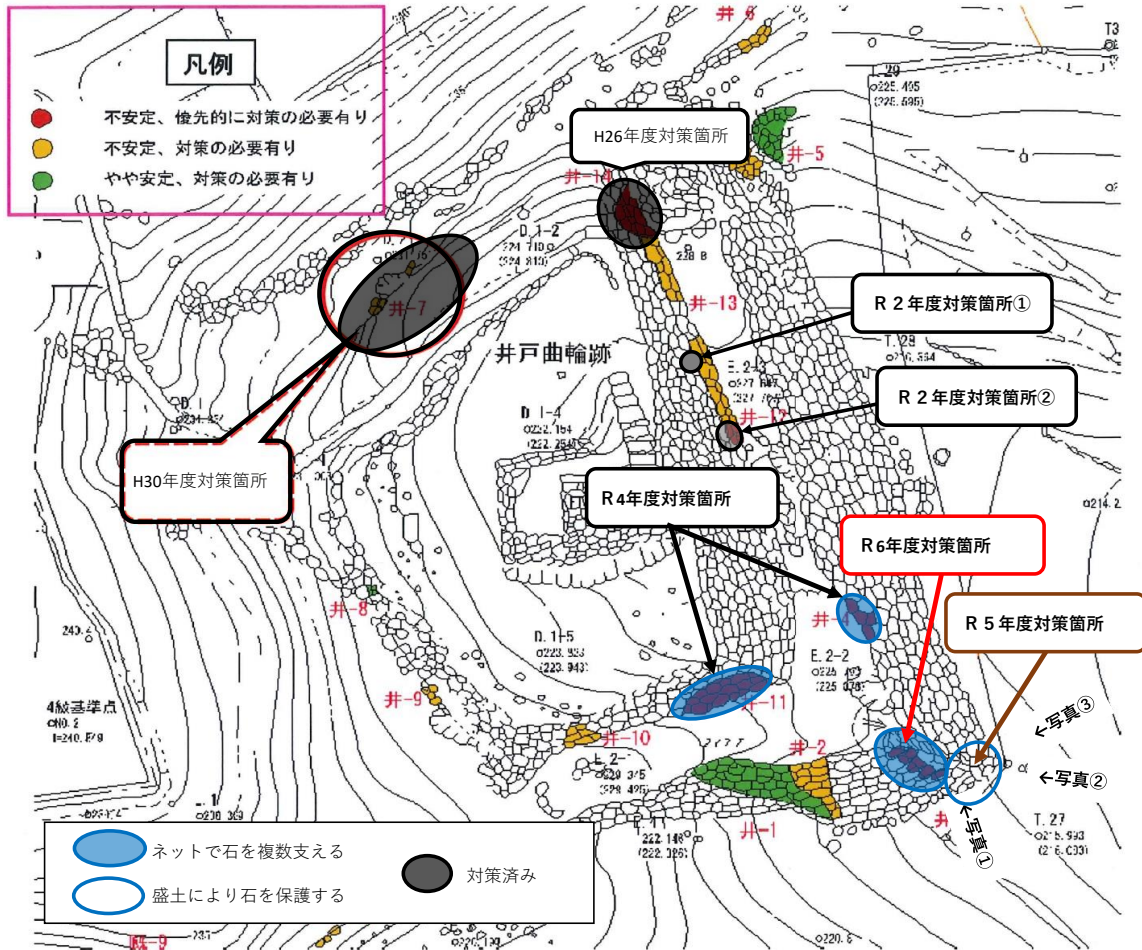
- 国史跡指定地
- 公有地(国・県・市)

史跡石垣山井戸曲輪石垣保全対策工事について

資料 2

概要

令和3年度に設計した工法に基づき、井戸曲輪石垣の保全対策工事を実施するものである。工事箇所は井戸曲輪東側角部の石垣である。工法は、上半部をワイヤーネット被覆工法とし、下半部については令和5年度に土のうを支えとして用いた工法にて実施した。



対策工事箇所 (写真③)

小峯曲輪北堀法面復旧工事

1 位置図



2 事業概要

令和4年9月の大雨の影響により、崩落した小峯曲輪北堀法面については、法面に保護盛土（改良土）を覆土し、植生マットを敷設した。

また、法面上部には、雨水の流入を防ぐため排水構造物を設置するとともに、管理用通路の復旧等を行った。

3 工事内容

法面工（盛土工 61.8 m^3 、植生シート敷設工105 m^2 ）

排水構造物設置工（240U型側溝）、管理用通路復旧工ほか

工期 令和6年11月～令和7年3月

4 工事写真

施工前



施工後



小峰曲輪北堀法面の実施設計について

1. 目的

小田原城址公園内にて崩落した小峰曲輪北堀法面について、過去の遺跡の調査状況等の諸条件に基づき、史跡小田原城跡の遺構保護に努めるため、地質調査・測量を実施したうえで、公園利用者の安全性を確保するための法面復旧工事の検討を行い、工事に必要な図書の作成等を行う。

2. 工法検討

(1) 設計の方針

工法検討は次の点に留意する。①遺構を損傷しない。②見学者・観光客等に対する安全を確保する。③小田原城址公園の景観への影響に配慮する。

(2) 主な法面復旧工法

法面復旧工法は大きく次の3点が上げられる。①落石対策工 ②植生工 ③構造物を用いた斜面保護工

- ・小峰曲輪北堀法面では、石積や崩落の恐れのある土塊は現状では確認されないことから、植生工と構造物を用いた斜面保護工を基本とする。
- ・法面は崩落土は除去し、必要な保護盛土を行った上で法面復旧を行う。

(3) 具体的な検討案

検討案	A 案：保護盛土＋植生工	B 案：保護盛土＋植生工＋構造物工①	C 案：保護盛土＋植生工＋構造物工②
イメージ	<p>上部～下部：植生マット（在来種）で修景する。</p>	<p>上部：植生マット（在来種）で修景する。 下部：木柵で土留を行う。</p>	<p>上部：植生マット（在来種）で修景する。 下部：ふとんかごで土留を行う。</p>
景観	◎災害前の状態に近く違和感が無い。	○土留めは木柵杭列等を設置することで城址公園内の景観に馴染むよう配慮する。	△構造物の種類によっては人工的な印象を与えるため城址公園の景観に馴染みにくい。
施工性	○	△ 構造物の設置に際して堀底面の施工が課題か。	△ 構造物の設置に際して堀底面の施工が課題か。
コスト	○ BC 案よりも盛土量が増える。	◎ 土留を設置することで盛土量が A 案より少ない。	◎ 土留を設置することで盛土量が A 案より少ない。
メンテナンス	◎	△ 将来的に構造物のメンテナンスが必要。	△ 将来的に構造物のメンテナンスが必要。

史跡の公有地化について（城内） 史跡小田原城跡用地取得事業 位置図

景観計画重点区域（小田原城周辺地区）



史跡の公有地化について（城内） 史跡小田原城跡用地取得事業 写真

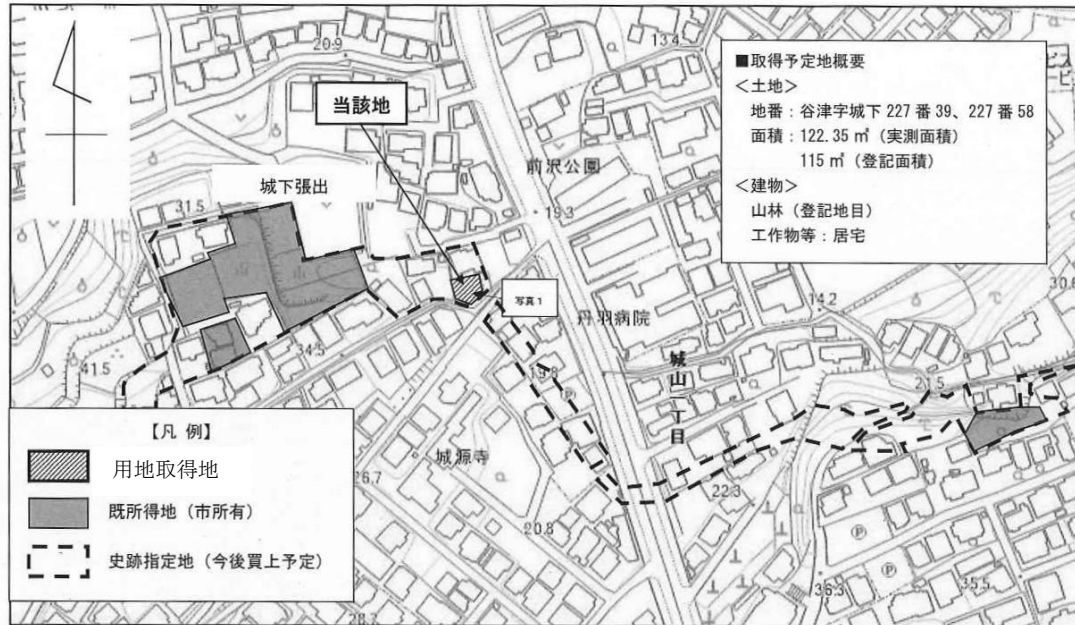


写真1



写真2

史跡の公有地化について（谷津字城下） 史跡小田原城跡用地取得事業 位置図

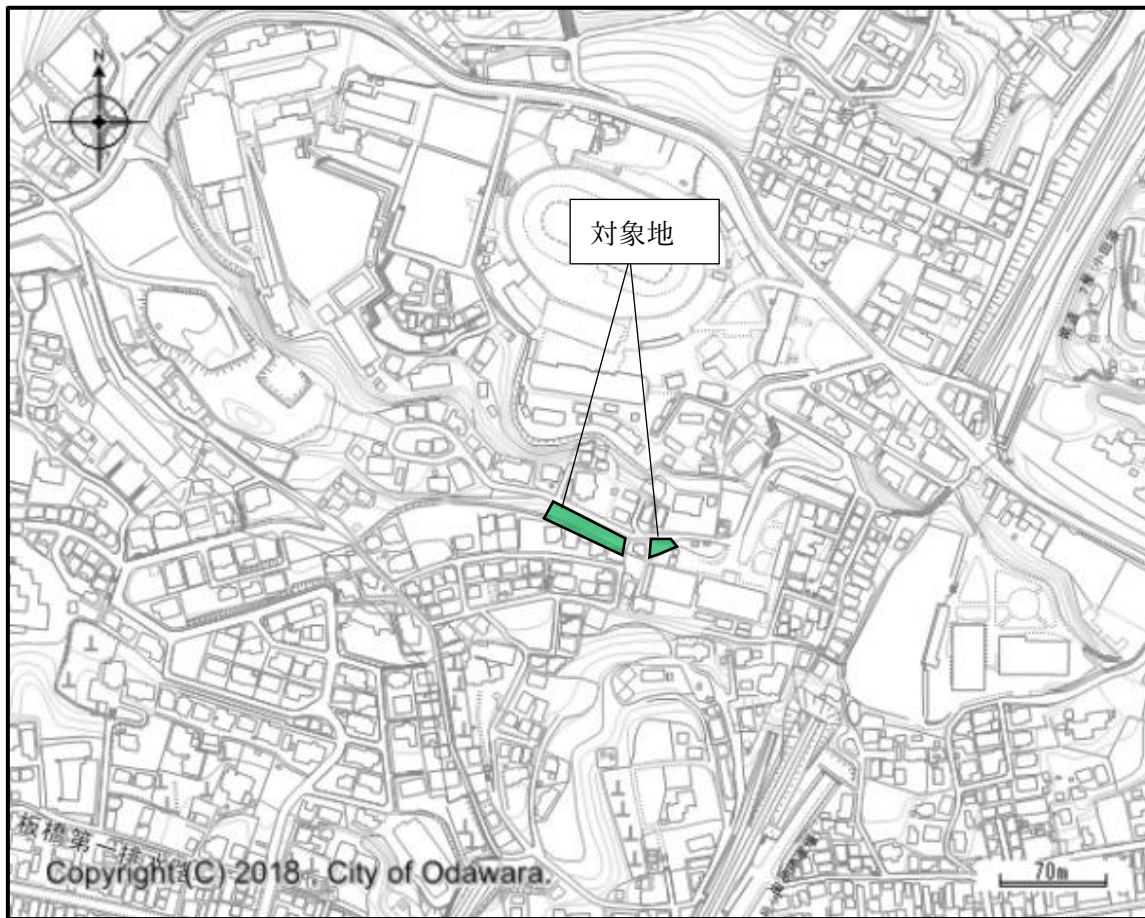


史跡の公有地化について（谷津字城下） 史跡小田原城跡用地取得事業 写真



写真 1

令和6年度 史跡小田原城跡三の丸外郭新堀土塁の樹木伐採等について



○伐採概要

期間：令和6年（2024年）10月23日から令和7年（2025年）3月31日まで

伐採面積：1,040 m²（管理地内除伐：1,000 m²、道路越境枝剪定：40 m²）

伐採本数：14本（ミズキ、サワラ、アラカシ、ナラ、カシ等）

○経過写真

○実施前



○実施後



○実施前



○実施後



○実施前



○実施後



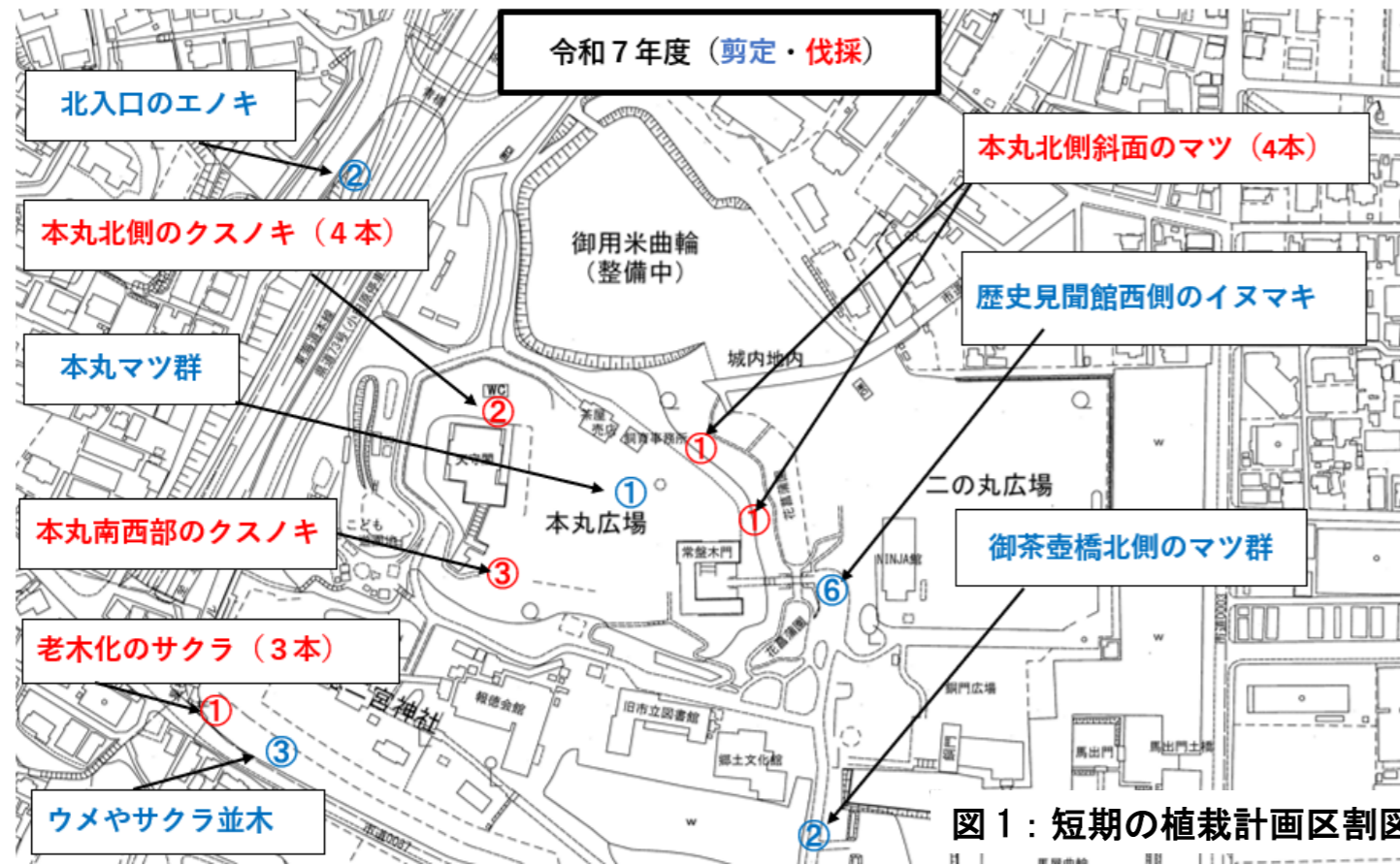


図1：短期の植栽計画区割図



作業前



作業後

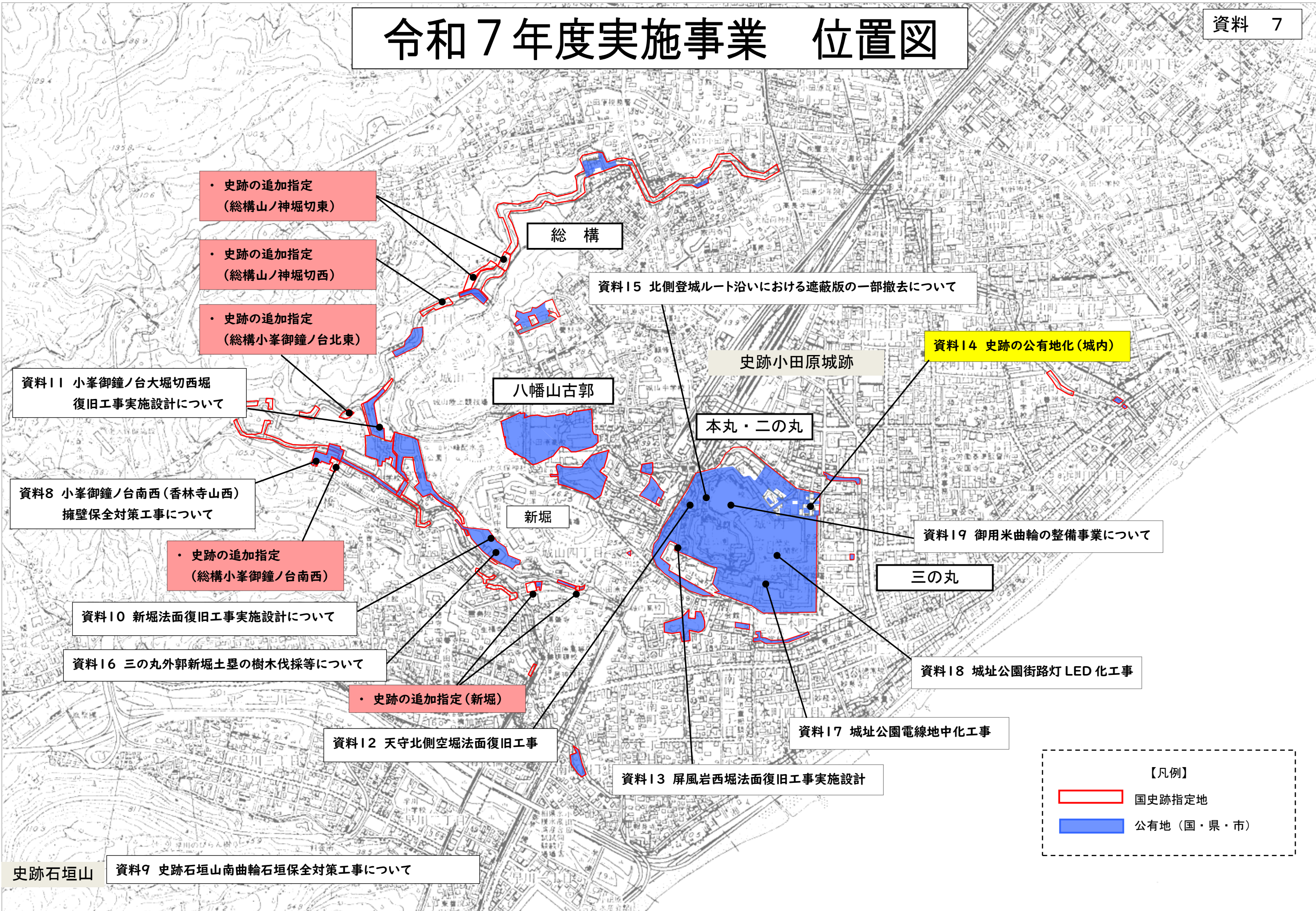
写真1：令和6年度実績 藤棚南側マツ（伐採）

年度	対象区域	整枝剪定等が必要な樹木整枝等が必要な樹木（通常の整枝剪定以外）	相当の枝下し、伐採等が必要な樹木
令和5・6年度 （実績）	(1) 本丸	北側のクスノキ、マツ群 常盤木門脇のサクラ、イヌマキ	東側マツ（2本）、北側斜面マツ（2本） サクラ（2本・内1本倒木） 常盤木門横クス
	(2) 二の丸（主部）	銅門広場のビャクシン、常盤木坂中段東側のイヌマキ	銅門北側、住吉堀張出マツ（2本） 歴史見聞館西側マツ 北堀のマツ
	(6) 南曲輪		藤棚南側マツ
	(8) 屏風岩（こども遊園地）	サクラ（1本）	サクラ（台風対策） クリ、ヤチャブシ
令和7年度	(1) 本丸	② 本丸のマツ群	①本丸の北側斜面マツ（4本） ②本丸北側クスノキ（4本）③南西部のクスノキ
	(2) 二の丸（主部）	⑥ 小田原城歴史見聞館西側のイヌマキ	
	(3) お茶壺曲輪	② 御茶壺橋北側のマツ群	
	(8) 屏風岩（こども遊園地）	② 北入口のエノキ	
	(9) 小峯曲輪	③ ウメやサクラ並木	① 老木化のサクラ（3本）
令和8・9年度 （予定）	(1) 本丸	本丸の南西部一帯の、クスノキ群	本丸の南西部一帯のクスノキ（4本）
	(2) 二の丸（主部）	北堀沿い一帯のマツ群、クスノキ群 銅門北側のマツ、イヌマキ 旧図書館北西部クスノキ群 小田原城歴史見聞館南側園路の桜並木	北堀沿いマツ（2本）クス（3本） 学橋際ヒマラヤスギ、マツ（2本）
	(3) 御茶壺曲輪	御茶壺橋北側一帯のマツ群	
	(4) 馬屋曲輪	小田原城総合管理事務所西側のマツ群 東部・南部一帯マツ群	小田原城総合管理事務所西側のマツ（1本）
	(6) 南曲輪	郷土文化館北側のクスノキ	旧図書館北西部クスノキ（2本）
	(8) 屏風岩（こども遊園地）		老木化のサクラ（3本）

※表中の丸数字は、「(仮称) 小田原城址公園植栽管理短期計画」及び図1「短期の植栽管理区割り図」と共通。

表1：短期実施計画

令和7年度実施事業 位置図



・ 史跡の追加指定
(総構山ノ神堀切東)

・ 史跡の追加指定
(総構山ノ神堀切西)

・ 史跡の追加指定
(総構小峯御鐘ノ台北東)

総構

資料15 北側登城ルート沿いにおける遮蔽版の一部撤去について

資料14 史跡の公有地化(城内)

資料11 小峯御鐘ノ台大堀切西堀
復旧工事実施設計について

八幡山古郭

本丸・二の丸

資料8 小峯御鐘ノ台南西(香林寺山西)
擁壁保全対策工事について

新堀

資料19 御用米曲輪の整備事業について

・ 史跡の追加指定
(総構小峯御鐘ノ台南西)

三の丸

資料10 新堀法面復旧工事実施設計について

資料16 三の丸外郭新堀土塁の樹木伐採等について

・ 史跡の追加指定(新堀)

資料18 城址公園街路灯LED化工事

資料12 天守北側空堀法面復旧工事

資料17 城址公園電線地中化工事

資料13 屏風岩西堀法面復旧工事実施設計

史跡石垣山

資料9 史跡石垣山南曲輪石垣保全対策工事について

【凡例】

- 国史跡指定地
- 公有地(国・県・市)

小峯御鐘ノ台南西（香林寺山西）擁壁保全対策工事について

1 概要

板橋字香林寺 881-1 他に所在する鉄骨工作物について、若干傾きが認められることから撤去をする。また、北側に隣接する擁壁についても、設置地盤に不備があることが判明したため、撤去を実施する。鉄骨工作物及び擁壁撤去後は、斜面の保全を目的に、ユニットネット工法により崩落防止措置を行う。

2 スケジュール

- ・令和6年度 実施設計
- ・令和7年度 工事着工予定
- ・令和8年度 工事完成予定

3 工法概要

斜面にそってユニットネットと呼ばれるワイヤーロープを設置する工法。ユニットネットの抑えとしてロックボルト（最小長さ2m）が必要となる。なお、地形改変は生じず、樹木を残置することが可能である。

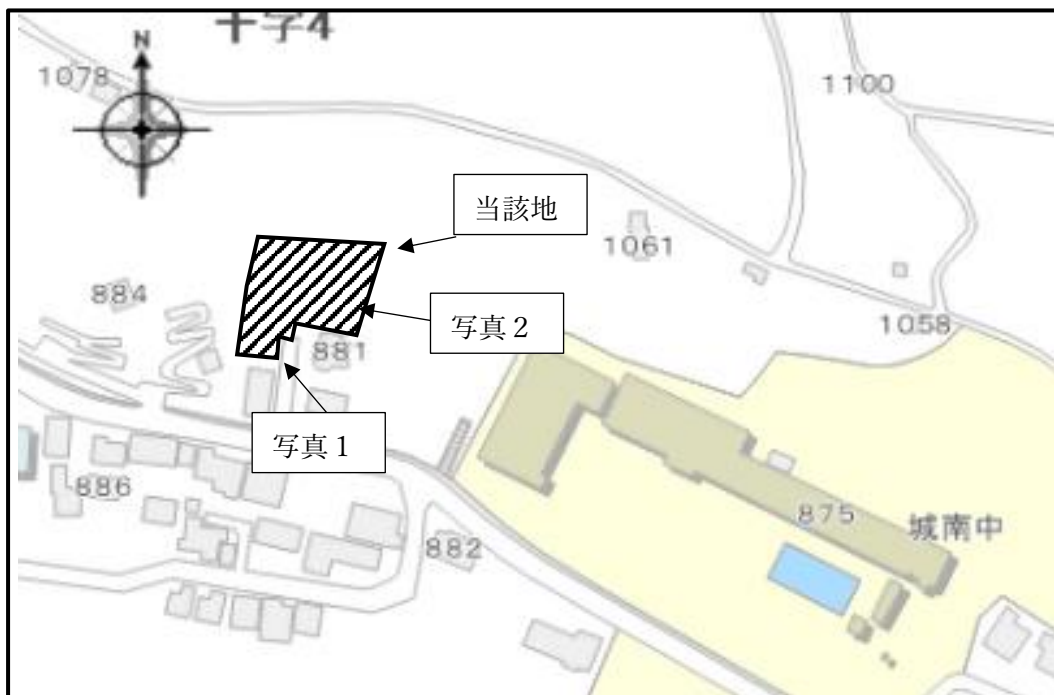




写真1



写真2

史跡石垣山南曲輪石垣保全対策工事について

1 工事の概要

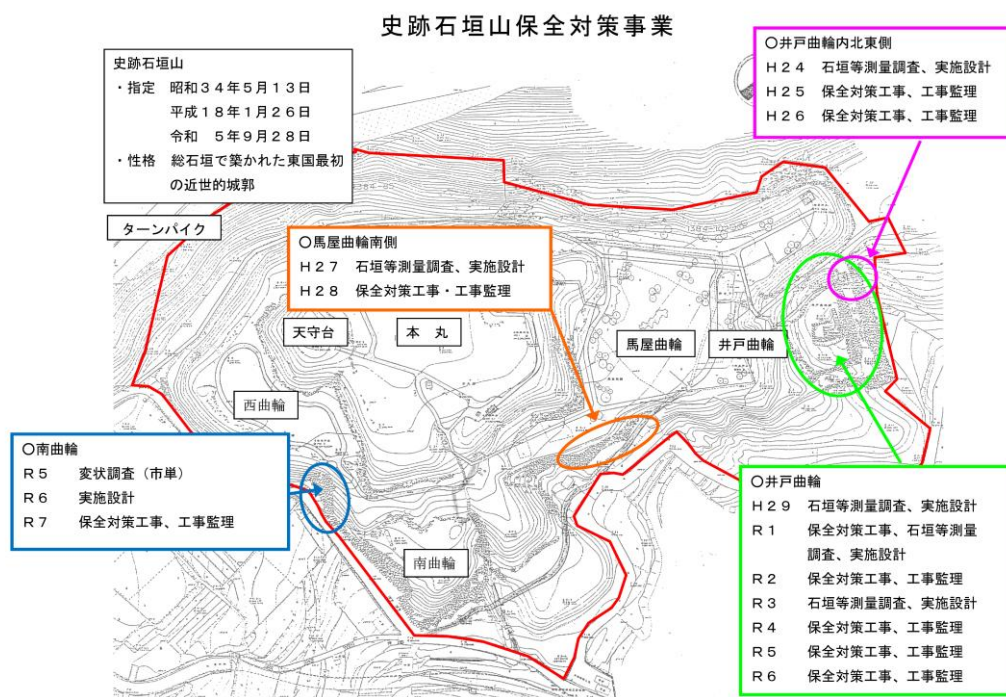
令和5年に南曲輪で落石があり、同所の石垣変状調査を実施した。安全確保、遺構保全のため、令和6年度に石垣保全対策工事实施設計を作成し、令和7年度に覆式落石防護網工法により工事を実施する。

2 令和7年度スケジュール

- ・令和8年3月 工事完成予定

3 工法概要

石垣全体を金網とワイヤーロープで覆う予防工。落石が発生しても金網と石垣面の間で石垣下方に落石を誘導するので、道路側への落石影響は回避できる。金網が併設されているので、裏込め財や間詰石の抜け落ちにも対策ができる。アンカーは両端部と上面に設置する必要がある。ワイヤーロープは縦、横方向に設置する。





対策工事箇所（写真②）



対策工事箇所（写真③）

新堀法面復旧工事実施設計について

業務の概要

令和6年8月29日からの台風10号により、史跡小田原城跡新堀の隣地境法面が幅15m、斜長15m崩落した。仮復旧で崩落した土砂、コンクリート等を撤去した。本復旧に向け、遺構を保護し、景観に配慮した復旧工事を実施するため、実施設計を作成する。

位置図

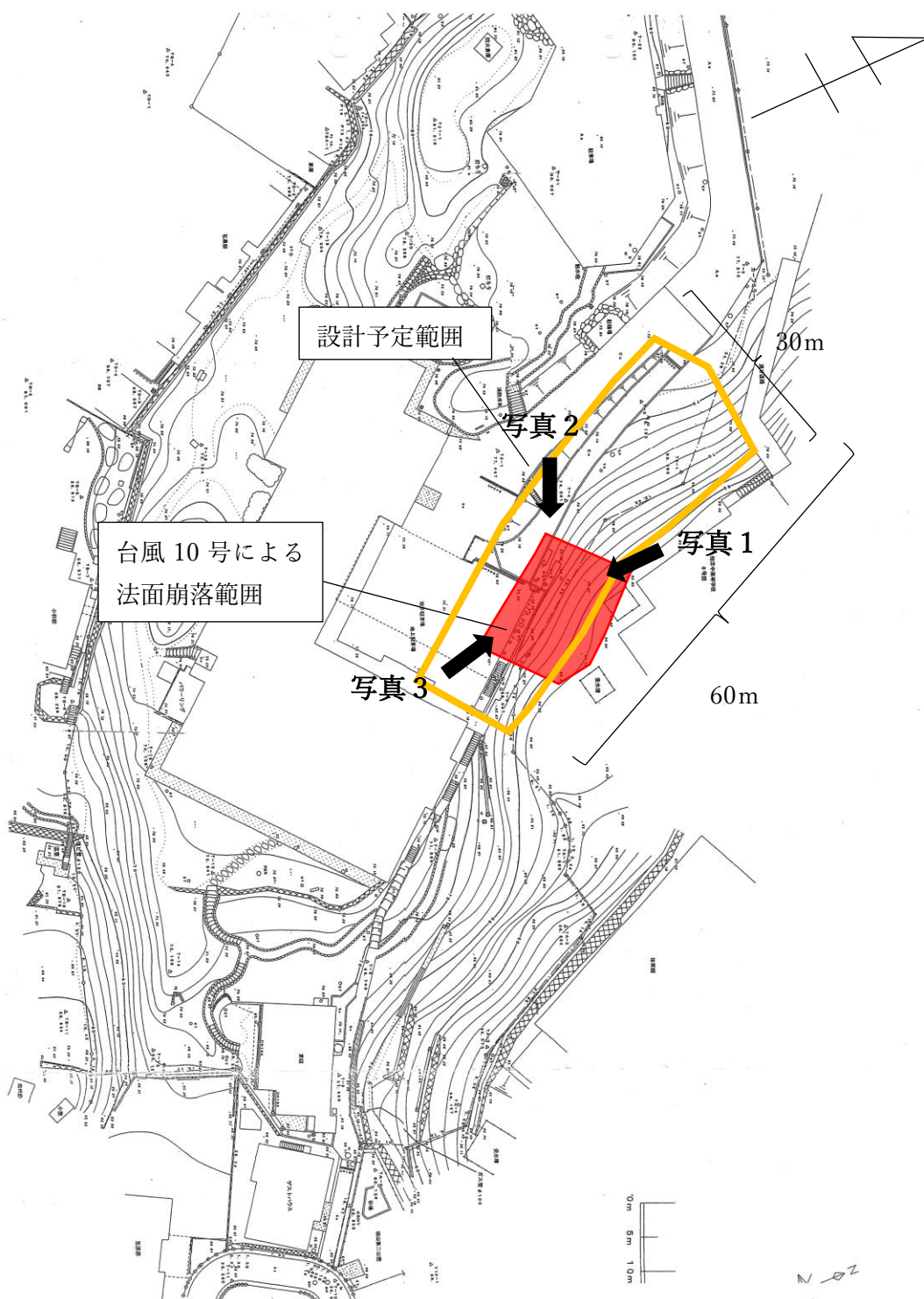




写真 1



写真 2



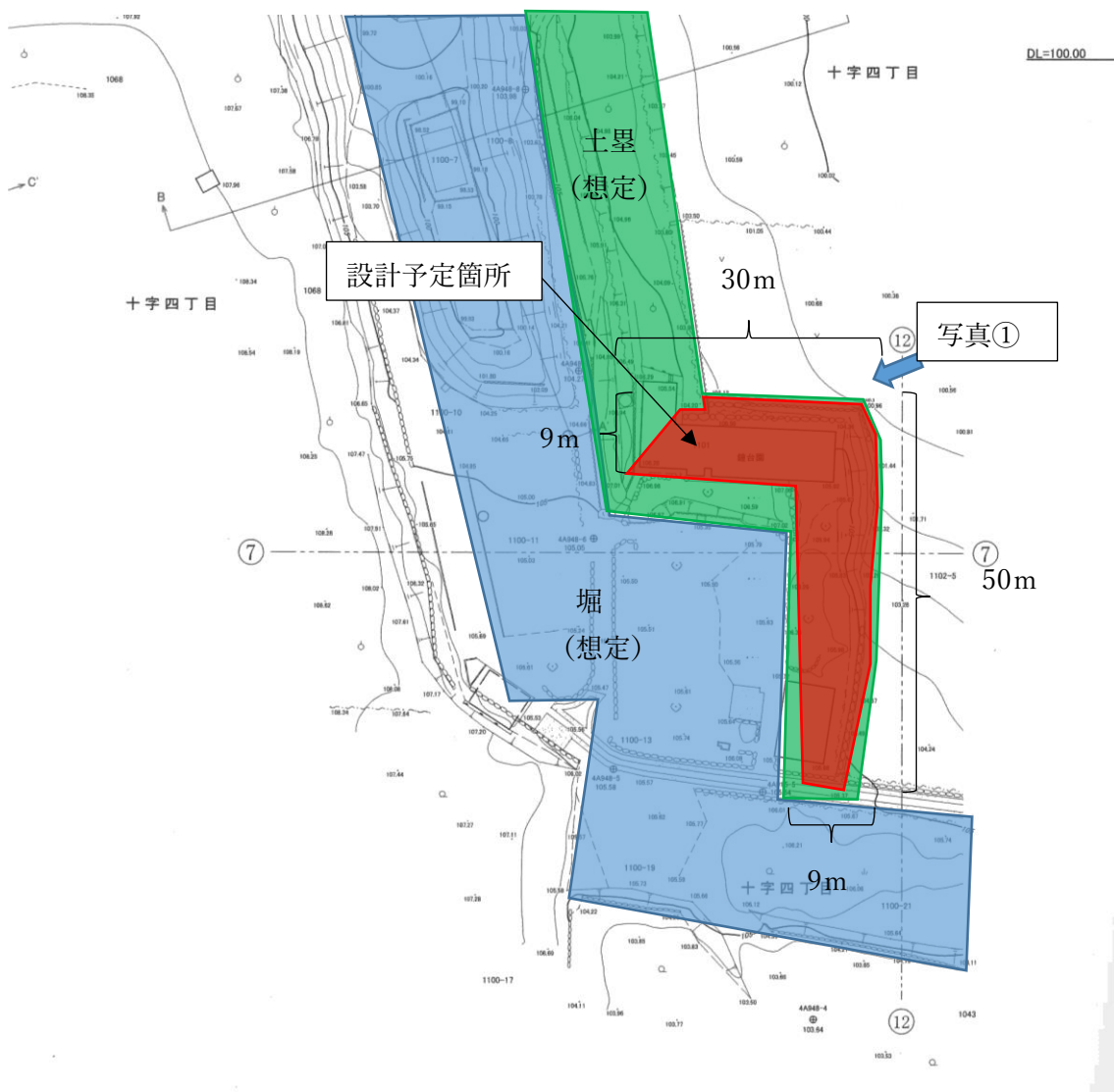
写真 3

小峯御鐘ノ台大堀切西堀復旧工事実施設計について

業務の概要

令和4年9月18日からの台風14号により、史跡小田原城跡小峯御鐘ノ台大堀切西堀の隣地境法面が幅13m、高4.5m崩落した。土砂撤去、崩落面にシートを敷設したが、その後予算措置が取れず復旧できていない。よって、遺構を保護し、景観に配慮した復旧工事を実施するため、実施設計を作成する。

位置図

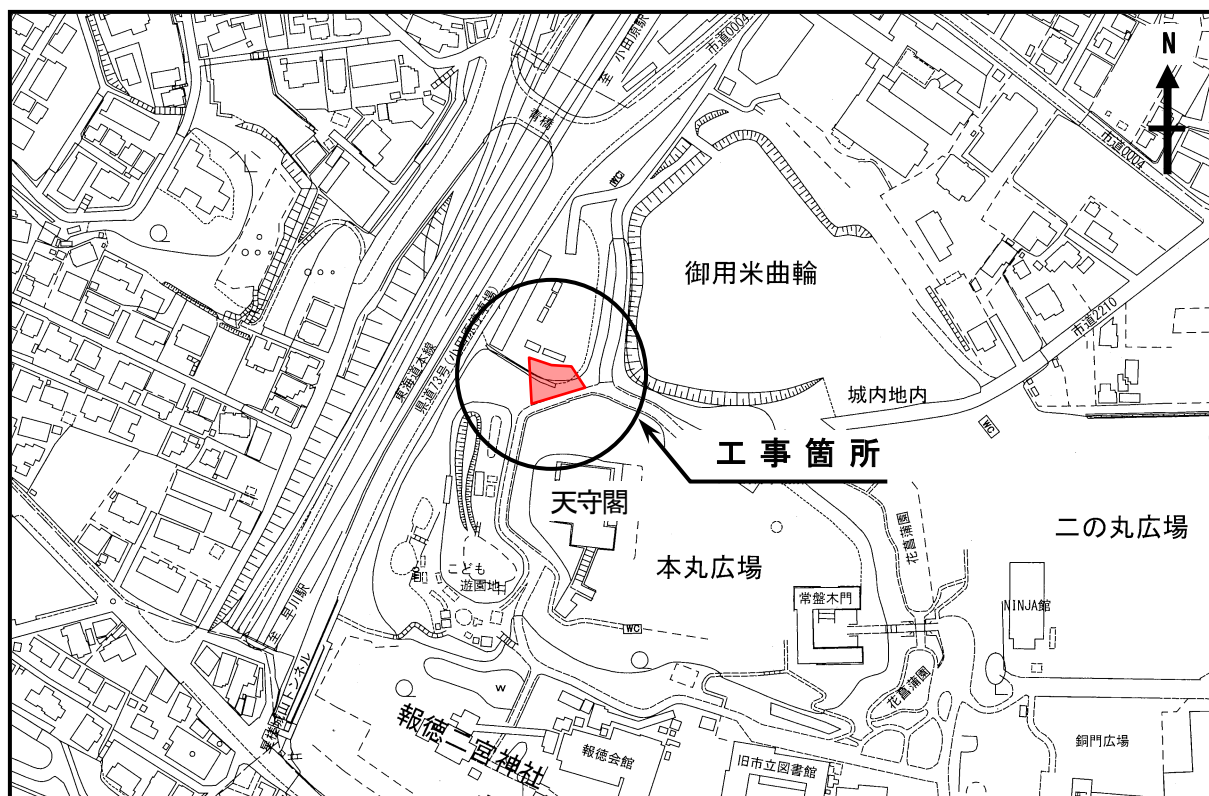




写真①

天守北側空堀法面復旧工事

1 位置図



2 事業概要

近年の集中豪雨等の影響による、道路のアスファルト舗装の亀裂やU型側溝の破損など、来場者の通行等に支障があることから、令和6年度の実施設計に基づき、法面復旧工事を行うものである。

3 工事内容

法面工（延長20m、面積196㎡）

排水工、アスファルト舗装工、転落補防止柵設置工

工期 6か月

4 施工方法

法面表層に高強度ネット張り、ロックボルト（鉄筋）を斜面に挿入する「高強度ネット工+ロックボルト工」とした。この高強度ネットは地山との密着性が良く、法面の緑化が可能な工法である。

また、法面上部の道路については、雨水排水対策として、路面の勾配を変え、側溝を天守閣側へ設置し、直接、法面へ流入しないよう変更する。

天守北側空堀法面復旧工事




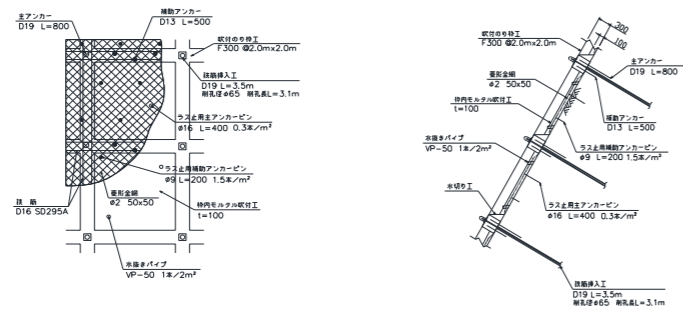
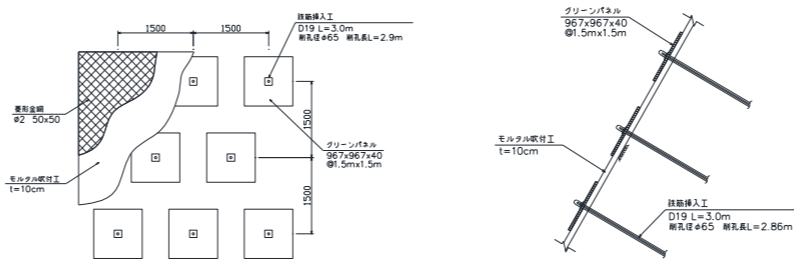
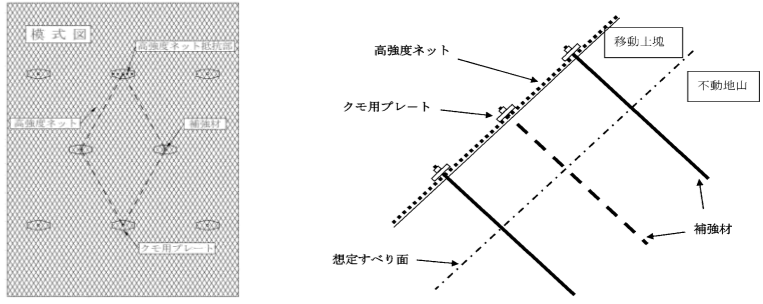
【平面図・写真】



※斜面路肩部が傾き、路肩と平行に舗装ひび割れが発生している。

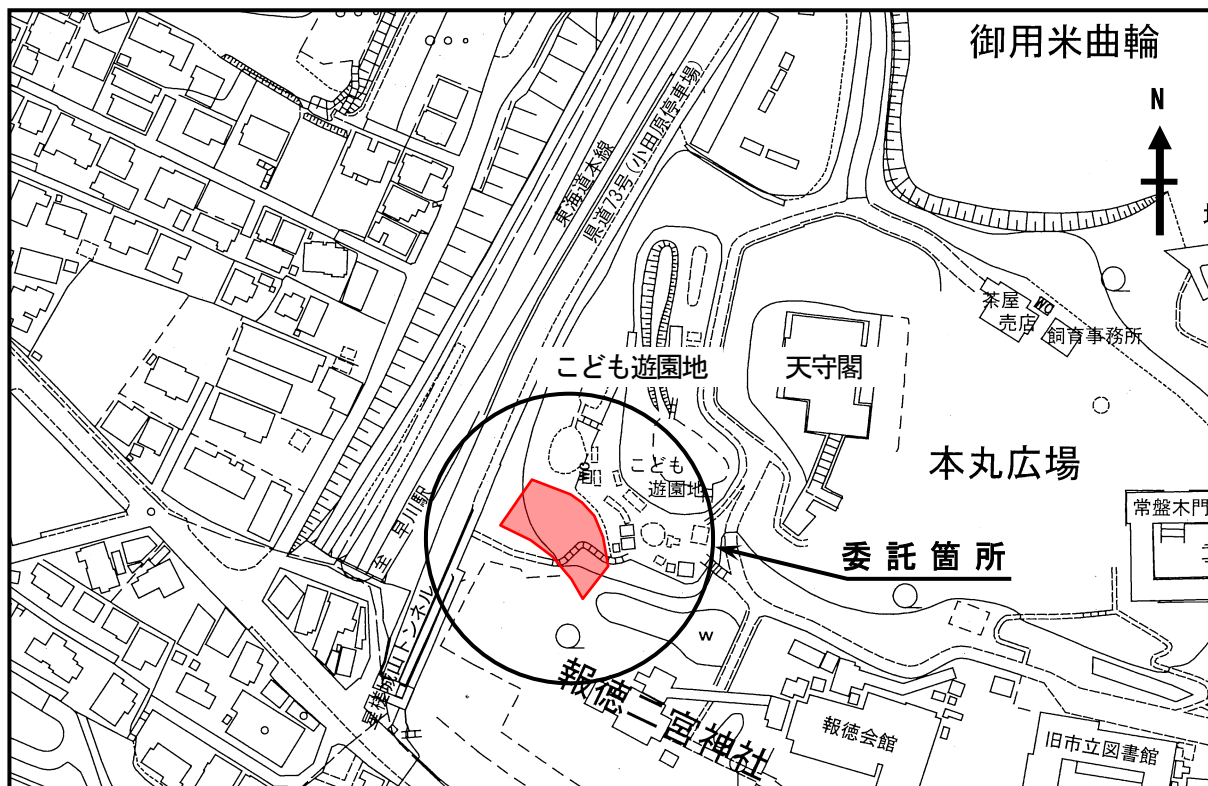


天守北側空堀法面復旧工事の工法比較一覧表

	A案：吹付法枠工+ロックボルト工	B案：独立受圧板工+ロックボルト工	C案：高強度ネット工+ロックボルト工												
概略図															
構造図															
工法概要	<ul style="list-style-type: none"> 金網型枠・鉄筋を組立、型枠内と枠内にモルタルを吹付ける。足場を仮設し、法枠交点に機械削孔によるロックボルト工を施工する。 	<ul style="list-style-type: none"> 足場を仮設し、機械削孔によるロックボルト工を打設。独立受圧板を設置する。モルタル吹付併用も可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 高強度ネットと補強材を組合せることで、従来の鉄筋挿入工に補強材間の中抜け(すり抜け)のすべり力に対して抵抗することを付与することができる。 												
工法規格	吹付法枠工 F200 @1.2×1.2 植生基材吹付工 t=10cm ロックボルト工 D19 L=9.5m 削孔径φ65 L=9.2m 1本/1.44㎡	独立受圧板工 レギュラーサイズ 967×967×40 植生基材吹付工 t=10cm ロックボルト工 D19 L=9.5m 削孔径φ65 L=9.4m 1本/1.44㎡	高強度ネット φ3 網目#143X83 スーパーコーティング 硬鋼線 ざぶとん材設置工 ポリプロピレン 200x200x55 植生基材吹付工 t=5cm ロックボルト工 D19 L=5.0m 削孔径φ90 L=4.8m 1本/1.44㎡												
安定性	<ul style="list-style-type: none"> 剛性の高い吹付け法枠工とロックボルト工で抑止する為、安定性は高い モルタル吹付工で枠内の浸食を防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> 独立受圧板工とロックボルト工で抑止するが、連続性が無いため他の案より安定性は低い。 独立受圧板工の間は、モルタル吹付工により浸食を防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> 表層すべり力に対し、高強度ネットとロックボルトで力学的に抵抗する構造。 ざぶとん裏込工法を併用することにより、プレートと地山との間の凹凸に対し確実に密着できる。 												
施工性	<ul style="list-style-type: none"> 金網型枠・鉄筋等を組立てる為、他の工法より工期がかかる。 モルタルプラントヤードが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ロックボルトの本数は多く、独立受圧板の取付けるは容易だが、植生基材吹付工を施工するので施工性は、中位。 	<ul style="list-style-type: none"> ロックボルト工の本数は多いが、ネット張工、ざぶとん設置工だけなので施工性は最も良い。 植生基材吹付工を施工する場合は施工性は、中位。 												
概算金額	直接工事費(100㎡当たり)					直接工事費(100㎡当たり)					直接工事費(100㎡当たり)				
	名称	単位	数量	単価	金額	名称	単位	数量	単価	金額	名称	単位	数量	単価	金額
吹付法枠工	㎡	158.3	13,400	2,121,220	独立受圧板工	基	70	55,000	3,850,000	法面清掃工	㎡	100.0	841	84,100	
ラス張工	㎡	100.0	2,160	216,000	植生基材吹付工	㎡	100.0	9,430	943,000	高強度ネット張工(手間)	㎡	100.0	1,932	193,200	
枠内植生基材吹付工	㎡	68.3	9,430	644,069	ロックボルト工	本	70	118,275	8,279,250	ざぶとん材設置工(手間)	㎡	100.0	1,974	197,400	
ロックボルト工	本	70	118,275	8,279,250	足場工	空㎡	210.0	4,760	999,600	鉄筋挿入工(手間)	本	70	77,900	5,453,000	
足場工	空㎡	210.0	4,760	999,600						材料費	式	1	3,142,480	3,142,480	
										植生基材吹付工	㎡	100.0	9,430	943,000	
	合計			12,260,139	合計				14,071,850	合計				10,013,180	
景観	<ul style="list-style-type: none"> 法枠内は緑化可能だが、枠の部分は不可。吹付部が露出するため、人工的な印象を与える。(吹付部を緑色等に着色することは可能) 	<ul style="list-style-type: none"> 法面全面が緑化可能。城址公園の景観に馴染む。 	<ul style="list-style-type: none"> 法面全面が緑化可能。城址公園の景観に馴染む。 												
評価	<ul style="list-style-type: none"> 剛性の高い吹付け法枠工とロックボルト工で抑止する為、安定性は高い 金網型枠・鉄筋等を組立てる為、他の工法より工期がかかる。 経済性は独立受圧板より優れ、高強度ネット工より劣る。 法枠は着色可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> 独立受圧板工とロックボルト工で抑止するが、連続性が無いため法枠より安定性は劣る。 独立受圧板の取付けは容易で、その上から植生基材吹付工を施工する 全面緑化が可能で、周辺環境との調和が図れる。 経済性は、最も劣る。 	<ul style="list-style-type: none"> 高強度ネットで中抜け防止し、ロックボルト工で抑止する為安定性は高い 全面緑化が可能で、周辺環境との調和が図れる。 工期短縮が図れ、トータルコストの縮減ができる。 経済性は、最も優れる。 												

屏風岩西堀法面復旧工事実施設計

1 位置図



2 目的

令和6年8月の台風第10号の影響により、屏風岩西堀の法面が崩れ、早期の復旧を目指し、令和7年度に実施設計を行う。

3 事業概要

屏風岩西堀法面復旧工事実施設計業務	設計業務	一式
	測量業務 面積	640 m ²
	地質調査業務	6箇所
	工期	7か月

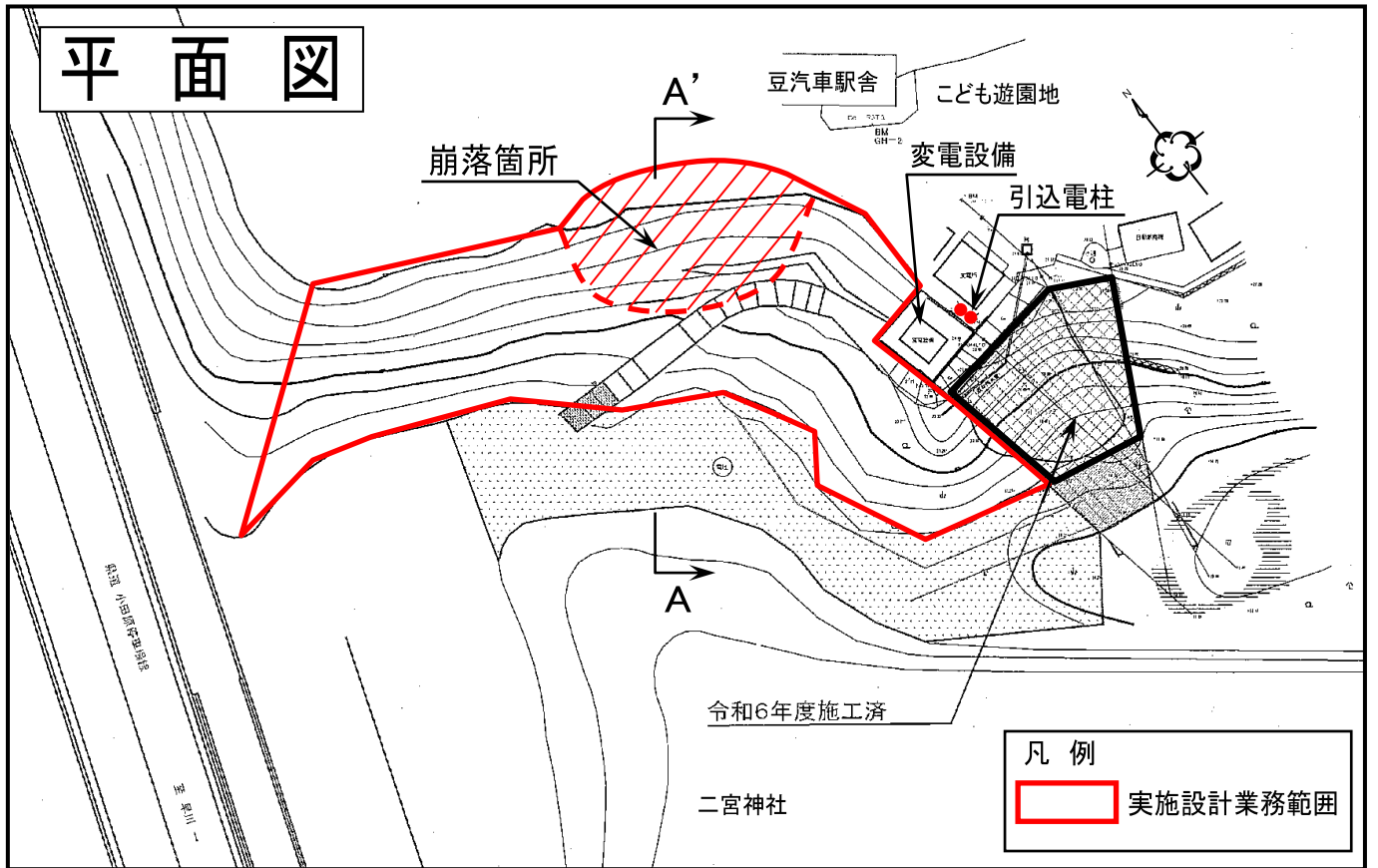
4 被害状況

高さ約5m、幅約12m崩落
 自動遊器具3台、両替機1台、テント1式
 桜1本倒木

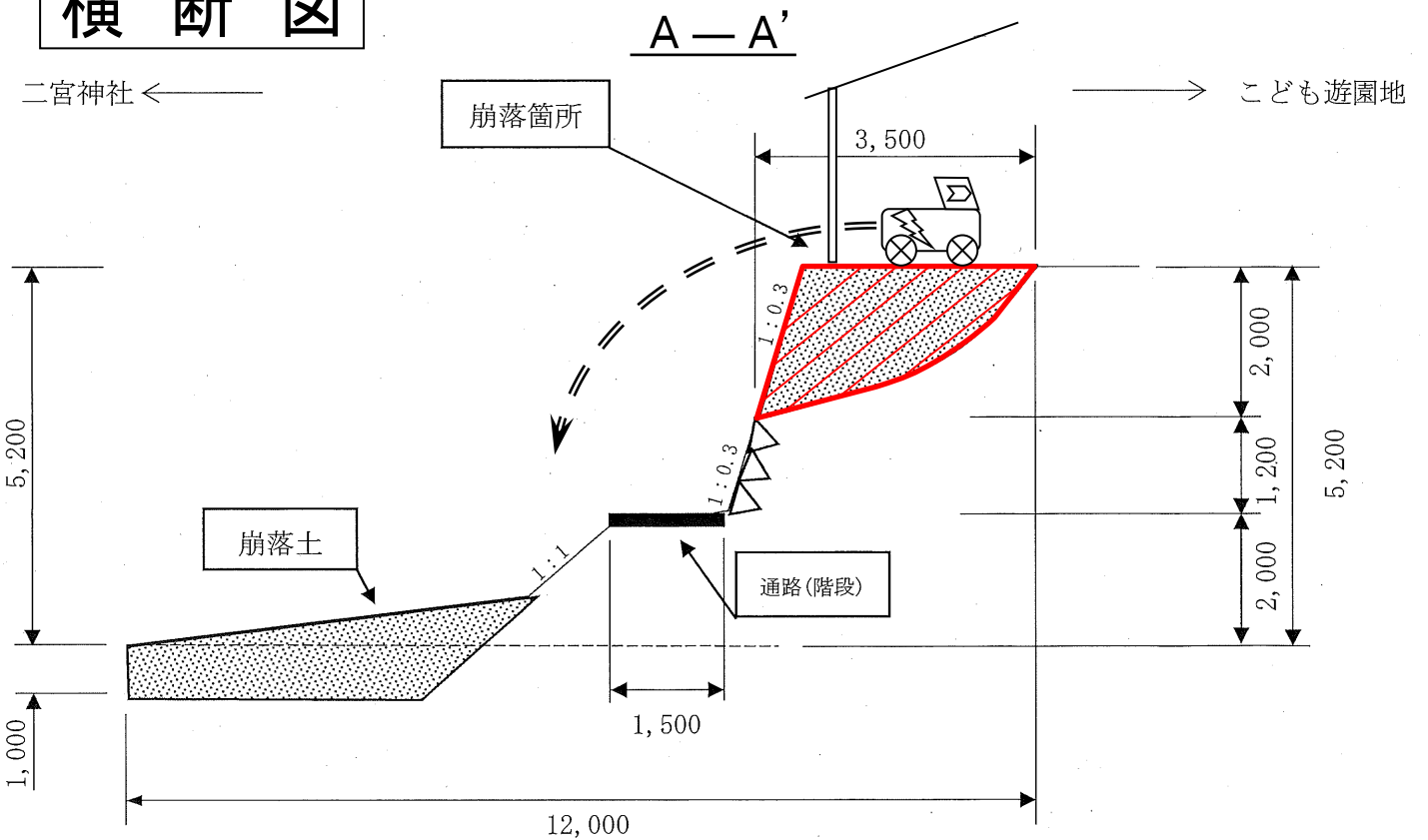
5 現状

崩落法面部分を大型防水シートで被覆

平面図



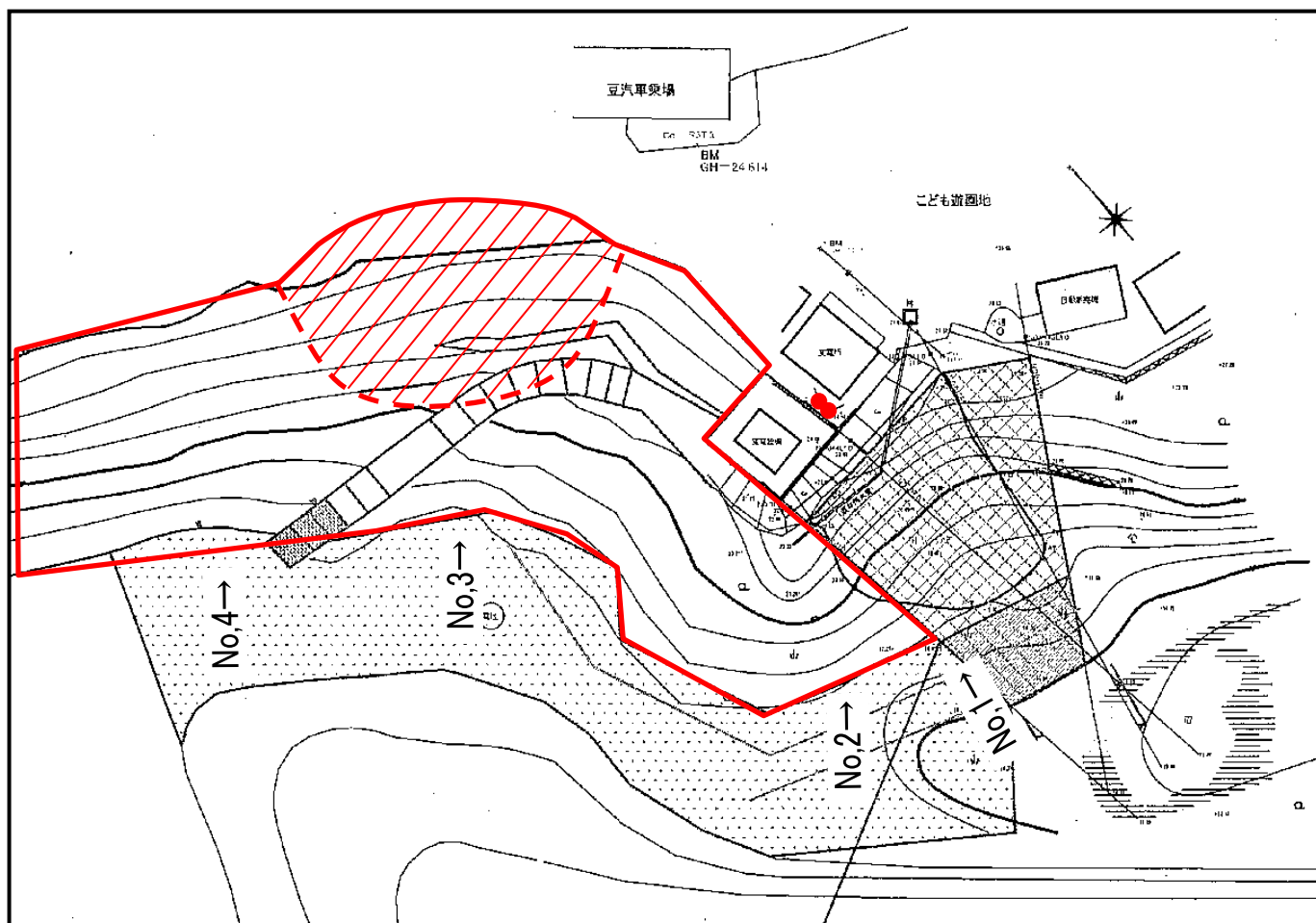
横断図



現況写真



写真撮影方向



No, 1



No, 2



No, 3



No, 4



史跡の公有地化について（城内） 史跡小田原城跡用地取得事業 位置図

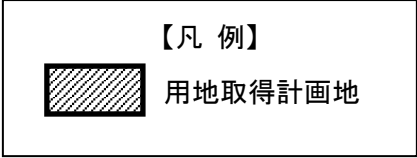


写真 1



写真 2



北側登城ルート沿いにおける遮蔽板の一部撤去について

1 位置図



2 写真



撮影方向①



撮影方向②

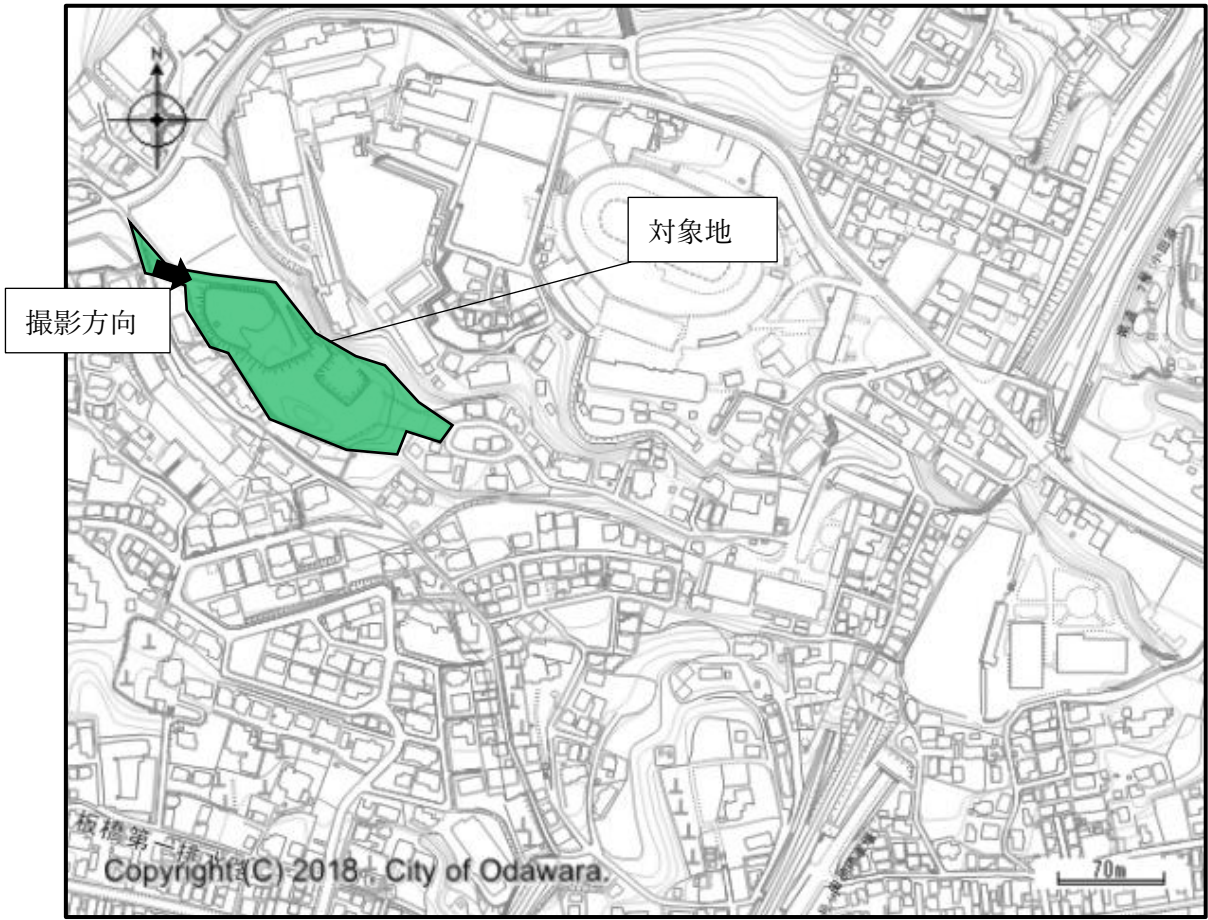
3 目的

御用米曲輪における発掘・整備状況を、北側登城ルートから展望・俯瞰できるようにするため、既存の遮蔽板 47 枚のうち、解説板としての機能を持っている 9 枚を除き撤去する。

4 スケジュール

令和 7 年度中に実施する。

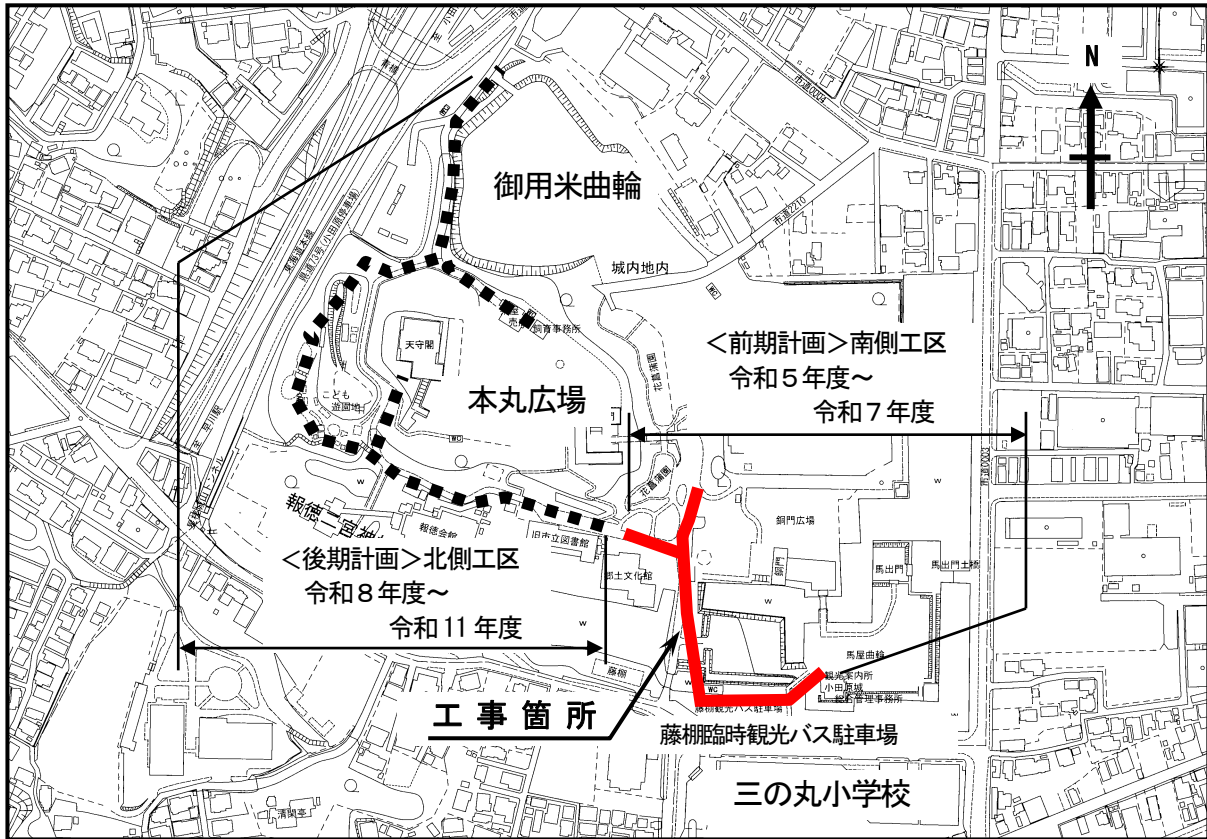
令和7年度史跡小田原城跡三の丸外郭新堀土塁の樹木伐採等について



〈参考〉現況写真

城址公園電線地中化工事

1 位置図



2 目的

城址公園内の景観形成の向上のほか、災害による電柱倒壊や倒木による架空電線の断線が発生するリスクを低減させるため、公園内の電線地中化工事を行っている。

3 実施状況

令和3年度	全工区	基本設計業務
令和4年度	全工区	詳細設計業務
令和5年度	南側工区	管路埋設
令和6年度	南側工区	高圧受変電設備設置、電力線通線

4 令和7年度工事内容

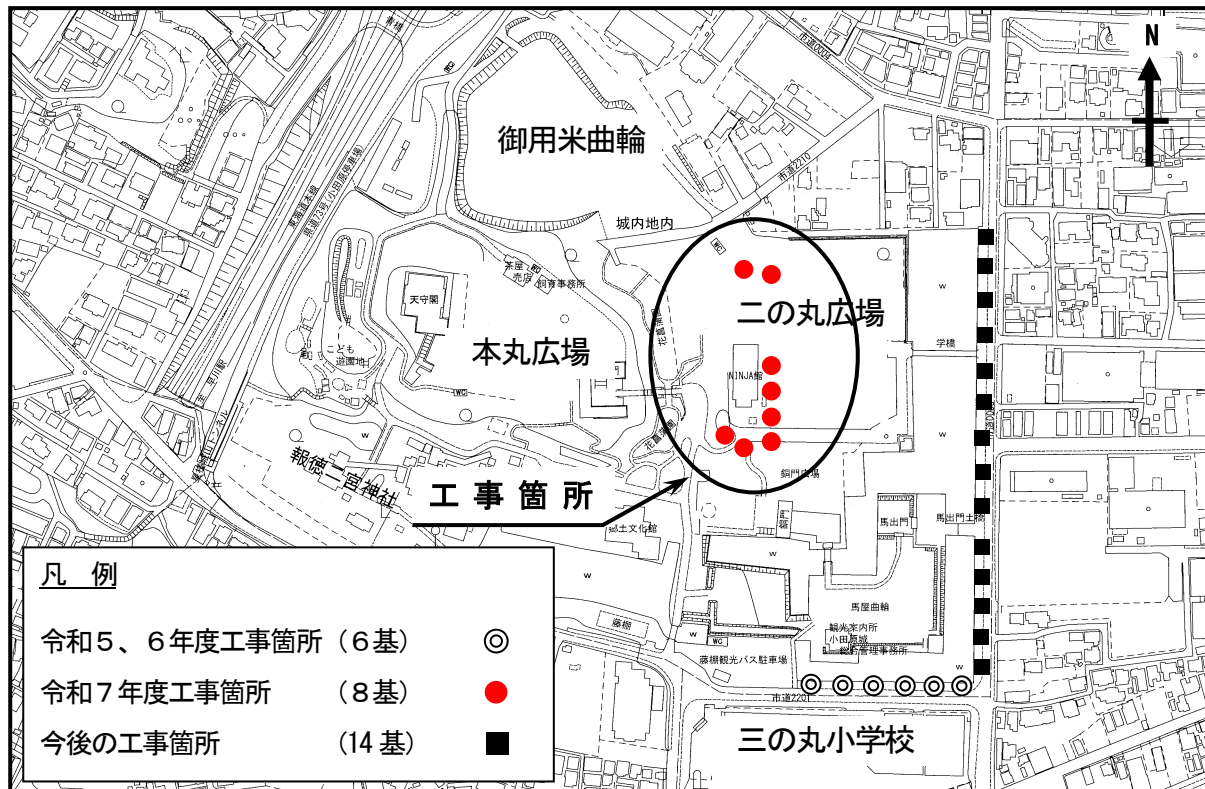
通信ケーブル通線	工事延長	400m
路面復旧工	舗装面積	350 m ²
街路灯設置工		2箇所

5 今後の予定

北側工区 令和8年度～令和11年度

城址公園街路灯LED化工事

1 位置図



2 目的

城址公園内に設置されている小田原城総合管理事務所所管の街路灯については、今後生産中止となる白熱球を使用しているため、省電力化を図るとともに、LED街路灯へ更新工事を行っている。

イメージ図

3 実施状況

令和5年度 3基

令和6年度 3基

4 令和7年度工事内容

街路灯本体更新 8基

5 今後の工事箇所

街路灯本体更新 14基



ごようまいぐるわ

御用米曲輪の整備に伴う発掘調査

～ 現地説明会資料 1 1 ～



- ・遺跡名：史跡小田原城跡 御用米曲輪（第9次調査）
- ・場所：小田原市城内900番3外
- ・調査期間：令和6年6月10日～令和6年12月（予定）
- ・調査主体：小田原市教育委員会

はじめに

国指定史跡小田原城跡御用米曲輪では、史跡整備に伴う発掘調査を実施しています。まだ調査の途中ですが、説明会では、江戸時代の井戸や寛永小田原大地震（1633）による地割れや、この地震より前の時期の礎石建物跡、戦国時代の石組水路・かわらけ廃棄土坑などをご覧いただきます。この説明会を通して、戦国時代から江戸時代までの御用米曲輪の姿に思いを馳せていただければ幸いです。

(1) 御用米曲輪の立地と歴史

御用米曲輪の立地

御用米曲輪は、小田原城址公園内の北側、標高 15m 前後の位置にあります。小田原城址公園は、江戸時代の小田原城本丸・二の丸に該当する範囲で、ほぼ全域が国指定史跡となっています。御用米曲輪は、昭和 34 年 (1959) の第 2 次指定で国指定史跡となりました。

現在、小田原城址公園の北入口から本丸へ向かうには御用米曲輪の北西土塁が通路となっていますが、本来小田原城にはこの道は存在しません (第 1・2 図)。御用米曲輪へ入るには、小田原藩主御殿がある二の丸あいおいばしを通過して相生橋 (羊橋) を渡るか、徳川将軍家御殿がある本丸から鉄門を経て鉄門坂くろがねもんごかを下って入るしかありません。また御用米曲輪の位置は、藩主の住まいである二の丸よりも奥にあることから、その重要性がうかがわれます。

御用米曲輪の歴史

文献史料から見た戦国時代の御用米曲輪の様子は定かではありませんが、小田原城が破却された慶長 19 年 (1614) 年以後の姿を描いているとされる「相州小田原古絵図」(通称「加藤図」)には、蔵のような建物が並ぶ様子が描かれています。また幕府の命で作成した「相模国小田原城絵図」(通称「正保図」)には、「百間蔵」と記されています。更に、小田原北条氏が「三間梁百間之御蔵材木煤谷へ申付分」として、煤谷村すすがやむら(神奈川県清川村)に蔵用の木材調達を命じた虎朱印状が残っているため、戦国時代末期の御用米曲輪には「百間之御蔵」が存在した可能性があります。

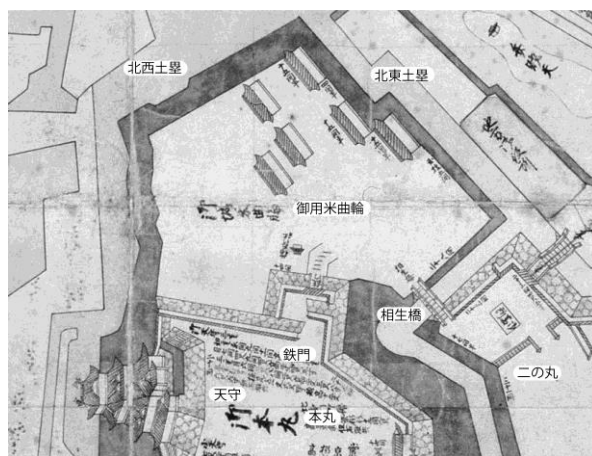
発掘調査では、戦国時代と見られる長大な礎石建物がみつっていますが、蔵であったかは明確ではありません。その一方、長大な礎石建物の下層からは、池や切石敷遺構、礎石建物や掘立柱建物などがみつき、御用米曲輪の下層には居館的な空間が存在していた可能性が考えられています。

江戸時代の御用米曲輪については、寛文 12 年 (1672) に幕府に提出された通称「寛文図」に「御城米曲輪」の記載があり、蔵の絵が描かれています。幕末に描かれた通称「文久図」では 6 棟の蔵が描かれており (第 2 図)、実際に発掘調査でも 6 棟の蔵跡がみついています。

これらの蔵は、明治維新を経て明治 8 年 (1875) までにすべて解体されます。その後、御用米曲輪を含む小田原城は、明治 34 年 (1901) から御用邸となり、戦後は野球場や臨時駐車場として利用されましたが、平成 22 年度から継続的に史跡整備を行っています。



第1図 御用米曲輪の位置



第2図 文久図に描かれた御用米曲輪

(2) これまでの発掘調査と調査の目的

御用米曲輪の調査は、今回の調査で9回目となるため、第9次調査と呼称しています。

発掘調査で見つかる建物跡などの遺構は、基本的に古い時期のものほど、下の層で見つかります。つまり、江戸時代の遺構よりも戦国時代の遺構の方が深いところにあります。これまでの調査で、御用米曲輪は、寛永10年(1633)の大地震の後に大規模に盛土されていることがわかっており、御用米曲輪の地下の様子は第3図のようであると考えられます。モデル図ではありますが、足元には何層もの歴史が重なって広がっているイメージです。

ここでは、まずこれまでの調査とその目的についてご紹介します。

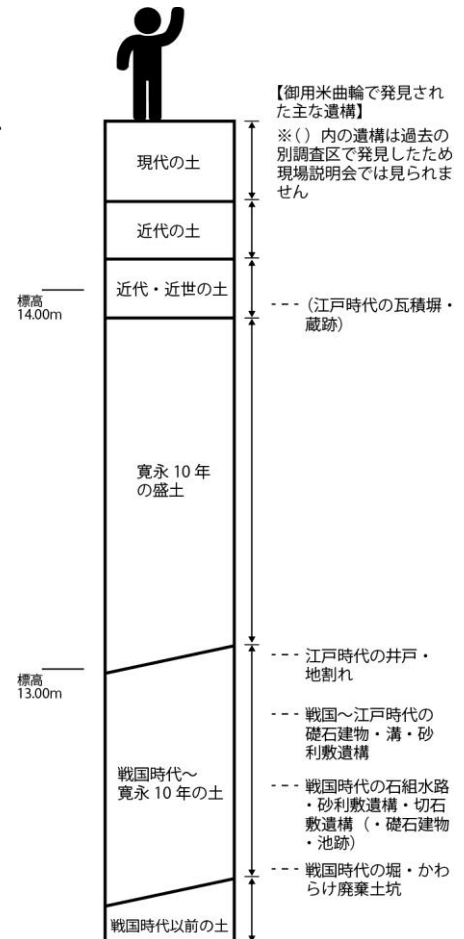
御用米曲輪は、昭和24年(1949)より市営野球場として利用されていましたが、野球場廃止後、市立城内小学校の再建問題が起こり、仮校舎の建設先として御用米曲輪が検討の対象となりました。これを受け、事前調査として昭和57年(1982)に**第1次調査**を実施しました。その結果、6棟の蔵跡の位置を確認するとともに、下層には戦国時代の遺跡が展開していることを確認しました。

第1次調査の成果を受け上記工事計画は中止となり、その後御用米曲輪はイベント広場や臨時駐車場として使用されましたが、平成22年(2010)に、整備着手に必要な『史跡小田原城跡御用米曲輪修景整備実施設計』を作成するための事前調査として**第2次調査**を実施しました。この調査は、曲輪の形を明確にすることを目的とし、調査の結果、御用米曲輪南東堀の位置を確認しました。

上記実施設計を作成した結果、追加調査が必要となったため、平成23年(2011)に**第3次調査**を実施しました。北西側の土塁の調査では、野球場内への通路として削平された切通し部分の調査などを行い、また北東側の土塁の調査では、土塁上ではほぼ絵図通りの位置で3棟の蔵跡を検出しました。さらにこの調査では、戦国時代の障子堀を確認したことから、御用米曲輪の戦国時代の様相が注目される契機となりました。

そこで平成24年(2012)には、戦国時代の遺構の展開を確認することを目的の一つとして、第4次調査を実施しました。その結果、新たに^{かわらつみべい}瓦積塀を伴う建物空間を確認しました。瓦積塀は、江戸時代に構築されたもので、現状では小田原城で唯一残る江戸時代の構築物となります。また、戦国時代の礎石建物や、切石敷遺構、池なども確認し、御用米曲輪全体に戦国時代の遺構が展開している可能性が高くなりました。

平成25年(2013)に実施した**第5次調査**は、第3・4次調



第3図 御用米曲輪土層堆積モデル図

査で確認した戦国時代の遺構の広がりを確認し、それぞれの遺構の連続性や時期を明らかにする目的で実施しました。その結果、戦国時代の遺構の展開は濃密で、庭園を伴う居館が存在する可能性が出てきました。

第5次調査の結果を受け、新たに御用米曲輪の北側についても戦国時代の遺構の展開を把握する必要があるとされ、平成26年（2014）に**第6次調査**を実施しました。その結果、第5次調査で確認した池及び切石敷遺構、礎石建物群の続きと、御用米曲輪北側でも戦国時代の遺構の広がりを確認しました。これらの調査で検出した切石敷遺構の様子は、小田原城天守閣3階の常設展示でもご紹介しています。

平成27年（2015）には、整備工事を実施する際の立会調査と、工事が遺跡に影響を与える範囲を確認する目的で**第7次調査**を実施し、戦国時代の石組水路などを検出しました。

上記までの調査で、御用米曲輪には戦国時代・江戸時代を通して重要な遺構が展開していることがわかりました。史跡を整備するためには、見つかった遺構そのものだけではなく、遺跡全体の空間の位置づけが必要となります。江戸時代の空間については、発掘調査成果や絵図などを基に、北西土塁、及び切通し部分を利用した土塁の断面表示、北東土塁とその上に造られた蔵跡、瓦積塀の整備を進めてきました。

一方戦国時代については、まだ不明瞭な点が多いのが現状です。他地域の館跡の調査事例と比較すると、福井県の特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の館跡では、建物や庭の空間が、建物などを伴う日常生活を営む場所と、庭などを伴う行事や儀礼などを行う場所で分かれています。御用米曲輪についても、建物跡だけでなく切石敷遺構や池が見つかることから、同様の空間が構成されている可能性が高いと考えられています。そして、当時の空間がどのようなものであったかを考える上で重要な鍵の一つとなるのが、石組水路の存在です。石組水路は、水を流すためだけでなく、設置される位置が、敷地の境や、庭や建物範囲など土地の用途ごとの区画が反映されていると考えられています。御用米曲輪の調査でも石組水路が見つかり、それらによって分けられた空間は、それぞれ建物の範囲や、池を伴う庭であったことが想定されます。

これらの空間が御用米曲輪全体でどのように広がっているのかを明らかにするため、未調査の範囲の石組水路の展開を明らかにすることを重要な目的の一つとして、令和5年（2023）に**第8次調査**を実施し、継続して**第9次調査**を進めています。

第8次調査では、第6次調査の別トレンチで検出した、食い違った位置に設置された石組水路が、折れ曲がってつながることがわかりました（第5図）。またこの調査では、これまであまり確認されていなかった江戸時代初頭とみられる砂利敷を伴う礎石建物などが見つかるとともに、寛永の小田原大地震以前の江戸時代にも御用米曲輪が利用されていることがわかりました。

(3) 第9次調査について

第9次調査の成果（令和6年11月23日現在）

第9次調査では、令和5年に実施した調査で検出した石組水路の延長を確認しつつ、未調査範囲における遺構の展開を確認しています。今回の調査範囲は、平成26年に実施した第6次調査第18トレンチと昭和57年に実施した第1次調査3トレンチの範囲を含んでいます（第4・5図）。現場説明会では、令和5年に実施した第8次調査Ⅱ区も公開しています。

史跡整備に係る発掘調査では、上層で確認した遺構を壊さずに下層の調査を進める必要があります。そのため、下層の調査は、上層の遺構を避けて限られた範囲で進めており、現場でご覧いただく遺構は、戦国時代から江戸時代のものが併存しています。第4図は、現時点で見つかっている遺構を模式図化したものですが、時期や規模などの詳細については、今後検討を進めていきます。

ここでは、現場説明会でご覧いただける主な遺構をご紹介します。

〔地割れ〕

御用米曲輪の調査では、度々地震による地割れが見つかります。その原因は寛永10年（1633）の大地震の影響が考えられ、今回の調査でも、広範囲で地割れが見つかりました（写真1・第4図-①）。地震の影響で割れた地面は、寛永の大地震以前の面であることがわかります。地割れが見つかる面の直上には、地震後の盛土と考えられる土層が厚く堆積しており（第3図）、この土層が、御用米曲輪の変遷を考える上で重要な鍵の一つとなります。



写真1 地割れの調査の様子

〔井戸〕

写真2は、石組の井戸です（第4図-②）。井戸の上部分は残っていませんが、江戸時代に造られたものであること、寛永の盛土の堆積よりも古い時期のものであることがわかっています。



写真2 石組井戸の検出状況

〔礎石建物〕

写真3の礎石建物は、第6次調査で見つかりました（第4図-③）。礎石の位置を動かさずに建物の

下に展開している遺構を確認するため、石の回りを残して掘り下げています。建物の時期は、石組水路よりも新しいものと想定しています。

写真4の礎石建物は、建物の周囲に溝が配置されています（第4図-④）。礎石が失われた柱の跡も確認できます。

[切石敷遺構]

写真5の切石敷遺構は、第1次調査で見つかりました（第4図-⑤）。戦国期の遺構で、切石だけでなく、五輪塔や宝篋印塔ほうきょういんとうを転用して、幾何学模様状に造られています。このような切石敷遺構は、第4～6次調査で、池の周りなどでも見つかっています。

[石組水路]

写真6の石組水路は第8次調査で、写真7の石組水路は第6次調査で見つかりました（第4図-⑥・⑦）。御用米曲輪では、石組水路が多数見つかっていますが、この石組水路には底石が敷かれており、他の石組水路に比べ重要度の高いものであった可能性があります。第8次調査区内の石組水路は、第6次調査18トレンチ・19トレンチの石組水路に折れ曲がってつながります（第5図）。この石組水路は、江戸時代初期の建物範囲を避けるように配置されており、この範囲が、戦国時代から継続して重要な場所であった可能性があります。



写真6 第8次調査で検出した石組水路



写真3 第6次調査で検出した礎石建物



写真4 第9次調査で検出した礎石建物



写真5 切石敷遺構の検出状況



写真7 第6次調査で検出した石組水路

[堀]

御用米曲輪の調査では、戦国時代の堀が見つっています。写真8の堀は、第6次調査で見つかりました(第4図-⑧)。戦国時代の礎石建物や石組水路よりも下層で見つかり、南東-北西方向に延びています。第8次調査、第6次調査19トレンチでも、同方向に延びる堀が見つっています(第5図)。



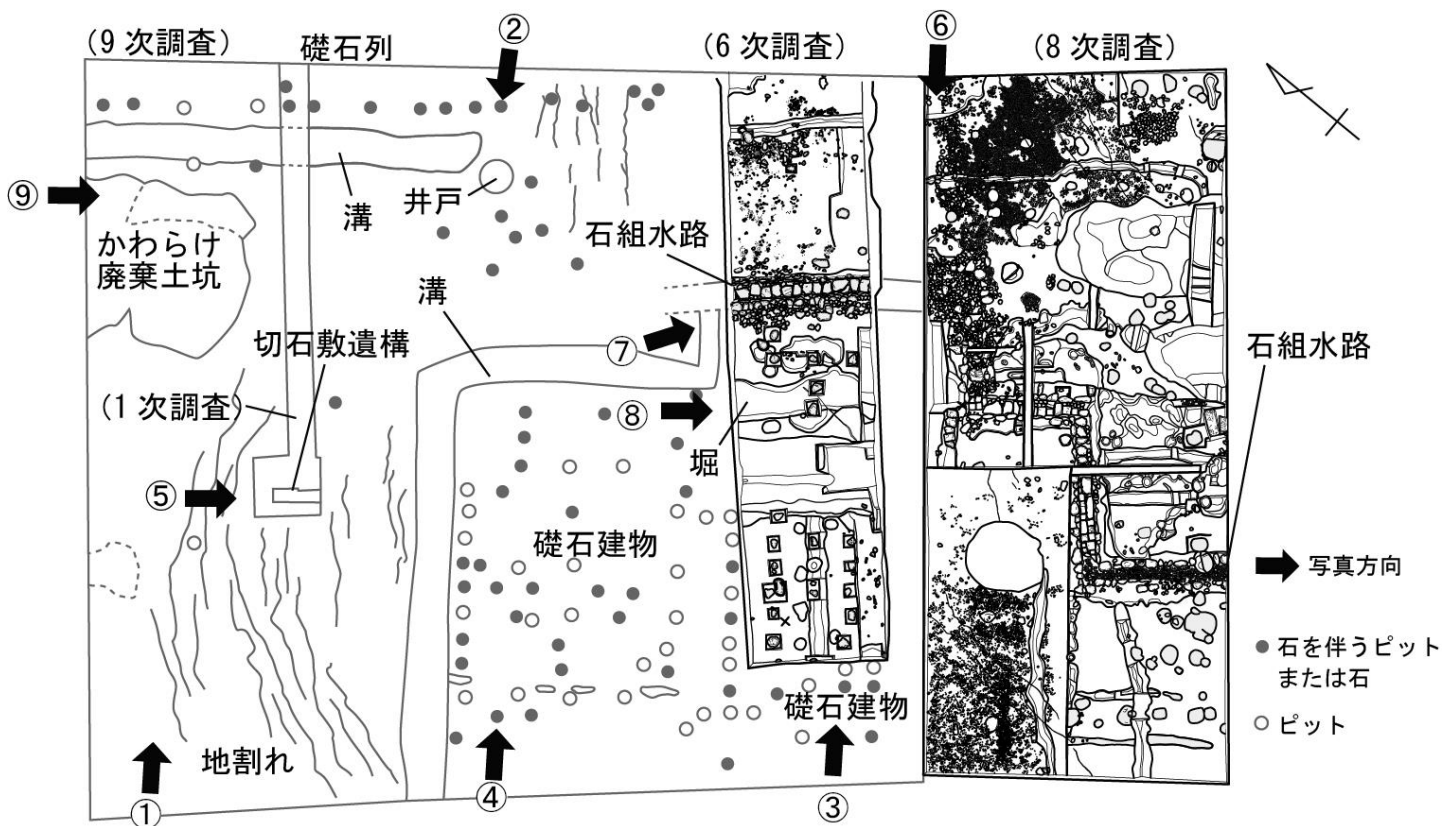
写真8 堀の検出状況

[かわらけ廃棄土坑]

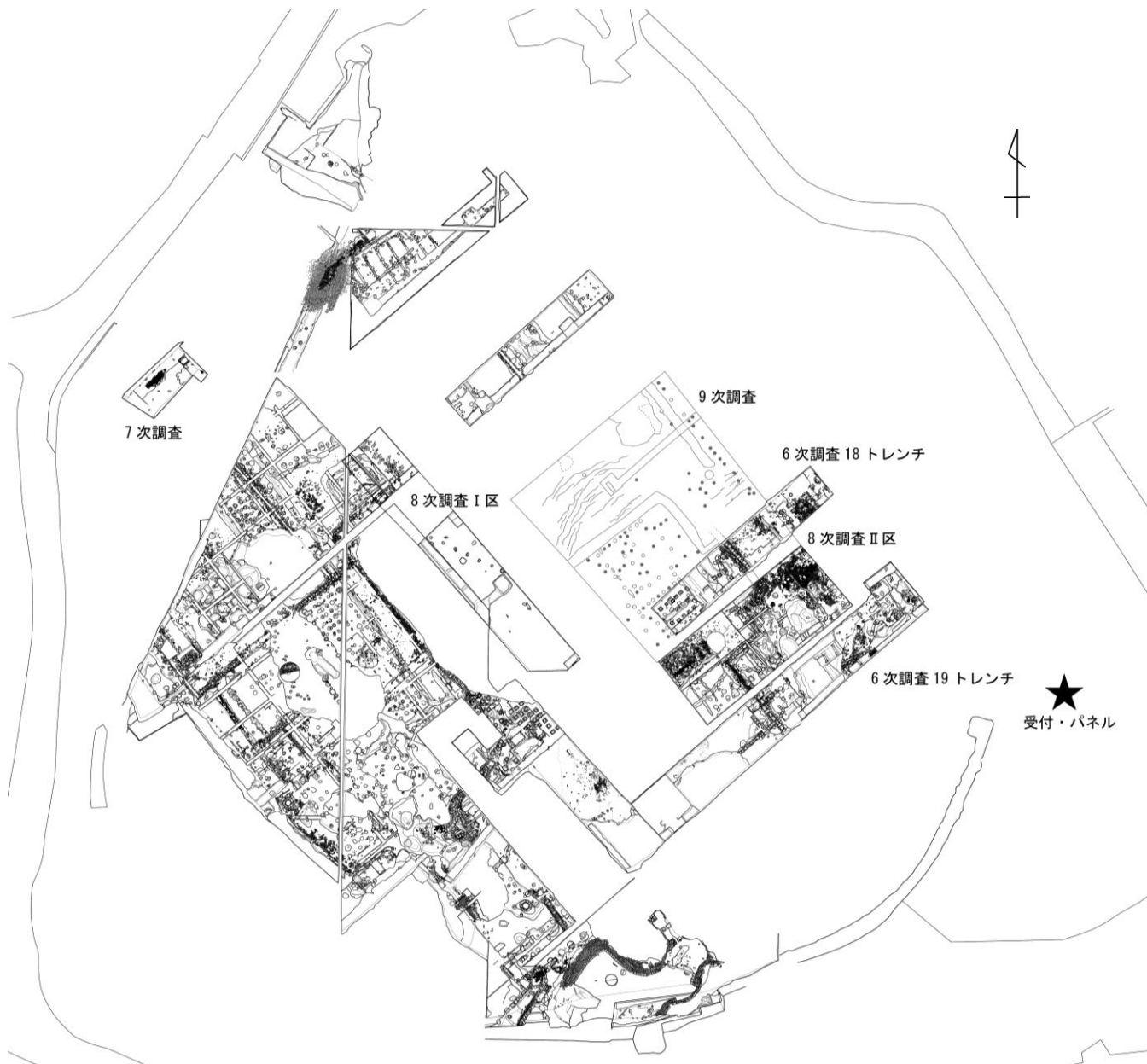
写真9の土坑(第4図-⑨)は、寛永小田原大地震の盛土の上から掘り込まれた土坑と位置が重複していますが、完形品に近い戦国時代のかわらけが多量に集中して出土しているため、戦国時代の土坑が壊された状態であることがわかりました。このかわらけは、御用米曲輪で出土するかわらけでも古い段階のものです。過去の調査では、北西土塁の切通し部分の調査や、御用米曲輪から北西へ25mの地点で実施した^{えんしょうぐるわ}焰硝曲輪の調査でも、同時期とみられるかわらけが出土しています。



写真9 かわらけ廃棄土坑



第4図 第8・9次調査遺構配置図



第5図 第2～6次調査の戦国期遺構・第7～9次遺構全体図

(5) おわりに

これまでの御用米曲輪の発掘調査での発見は、戦国時代・江戸時代ともに大変貴重なものです。この調査成果を保存し、公開・活用を通してその価値を皆さまにお伝えすることが重要と考えており、史跡整備を進めています。

皆様には、整備が完了するまでの間、いましばらくご不便をおかけしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

お問い合わせ先：小田原市文化部文化財課史跡整備係

電話：0465-33-1718

URL：<https://www.city.odawara.kanagawa.jp/>

御用米曲輪の発掘調査等について

1 令和7年度事業について

(1) 戦国期整備検討部会の開催

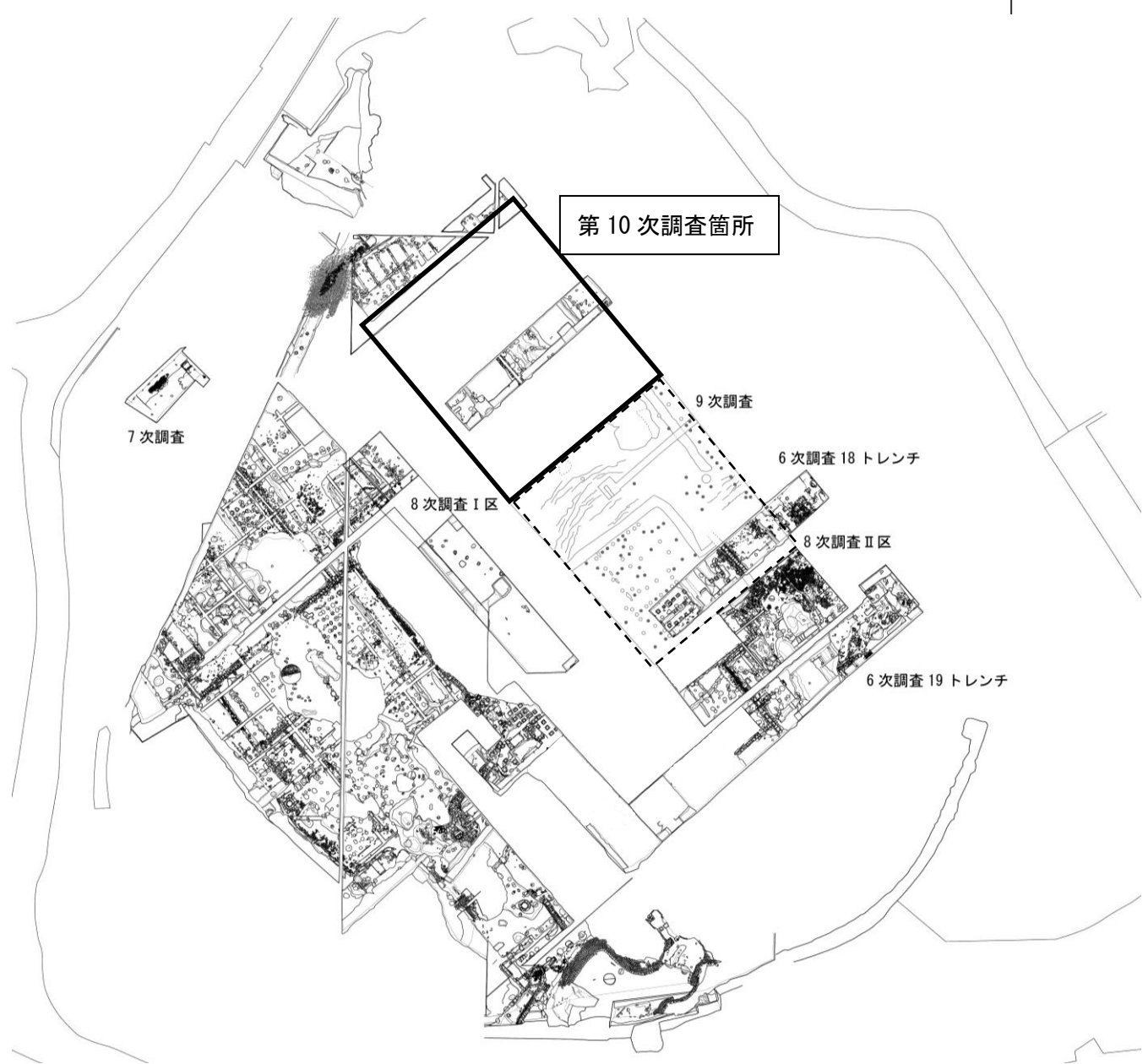
- ・ 3回程度開催予定。第1回を8月19日に開催予定。

(2) 発掘調査

- ・ 今年度は第10次調査として、御用米曲輪北側における戦国期の空間構成を確認するため、令和5年度から引き続き発掘調査を行う。なお、令和6年度第9次調査では近世初頭の遺構面まで調査を実施しており、それら遺構の保存を図りつつ、その下層部分の調査を今年度継続して行う。

2 今後のスケジュール（案）

年度	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)	令和11年度 (2029)	令和12年度 (2030)	令和13年度 (2031)	令和14年度 (2032)
項目	↔ 発掘調査	↔ 追加調査 埋め戻し	↔ 基本設計	↔ 実施設計	←	整備工事		→
		↔ 整理作業	↔ 整理作業	↔ 報告書印刷				



令和7年度第10次調査区位置図

(令和6年度現地説明会資料 11「第5図 第2～6次調査の戦国期遺構・第7～9次遺構全体図」を改変)

■御用米曲輪の整備事業について

1. 整備事業の経緯

①平成22年度【御用米曲輪の整備着手】

御用米曲輪の整備は平成22年度から始まり、江戸時代後期の姿を顕在化させることを目的としていたが、平成22年度から平成27年度にかけての発掘調査により、御用米曲輪南側で戦国期の遺構が確認された。これを受けて、南側を戦国期、北側を江戸期として、歴史的な重層性を表現する方針が定められた。

小田原城跡整備関連事業年表（平成30年度基本設計より抜粋したものに加筆）

年度	関連事業及び計画
昭和 57（1982）年度	『史跡小田原城跡整備の理念と方針』を定める 住吉堀の予備調査と整備に着手
平成 5（1993）年度	『史跡小田原城跡本丸・二の丸整備基本構想』策定
平成 9（1997）年度	銅門復元整備完了
平成 21（2009）年度	馬出門復元整備完了
	『史跡小田原城跡本丸・二の丸植栽管理計画』策定
	『史跡小田原城跡八幡山古郭・総構保存管理計画』策定
平成 22（2010）年度	『史跡小田原城跡本丸・二の丸植栽管理運用指針』策定
	御用米曲輪の整備に着手
平成 23（2011）年度	馬屋曲輪修景整備完了、大手筋の整備が一段落する
平成 25（2013）年度	『史跡小田原城跡御用米曲輪北東土塁の植栽管理実施計画』策定
平成 28（2016）年度	天守閣耐震工事および展示リニューアル完了
平成 30（2018）年度	『史跡小田原城跡御用米曲輪整備基本設計』作成
令和 2（2020）年度	『史跡小田原城跡保存活用計画』策定
令和 4（2022）年度	史跡小田原城跡御用米曲輪戦国期整備検討部会設立 御用米曲輪修景整備工事戦国期整備範囲基礎調査（1か年目）
令和 5（2023）年度	御用米曲輪修景整備工事戦国期整備範囲基礎調査（2か年目）
令和 6（2024）年度	御用米曲輪修景整備工事戦国期整備範囲基礎調査（3か年目）

②平成30年度【基本設計の策定】

平成30年度に史跡小田原城跡調査・整備委員会（以下、『調査・整備委員会』）の指導のもと「史跡小田原城跡御用米曲輪戦国期～江戸期整備基本設計」が策定されたが、戦国期の整備範囲については、遺構の解釈が確定していないことから、改めて整備の進め方を検討することとなった。

■平成30年度 基本設計の整備方針（平成30年度基本設計より抜粋）

3. 基本方針

a. 史跡小田原城跡内で戦国時代の北条氏の館や庭園という中枢部の遺構が一定範囲で確認された曲輪であることを踏まえ、戦国時代と江戸時代の遺構を共に保存整備し歴史の重層性を表す。

b. 戦国時代の整備は、居館として利用された時代の遺構で最も特徴的な庭園跡を整備公開することを第一目的とする。

c. 江戸時代の整備は御用米曲輪の機能を表す米蔵跡及び小田原城跡では現在唯一の江戸時代に遡る工作物である瓦積堀の整備を行うと共に、土塁等城郭として重要な遺構の保存整備を行う。

d. 戦国時代の居館や江戸時代の曲輪のすがたを体感でき、当時の様子を分かりやすく示せるような整備手法と解説方法を検討する。

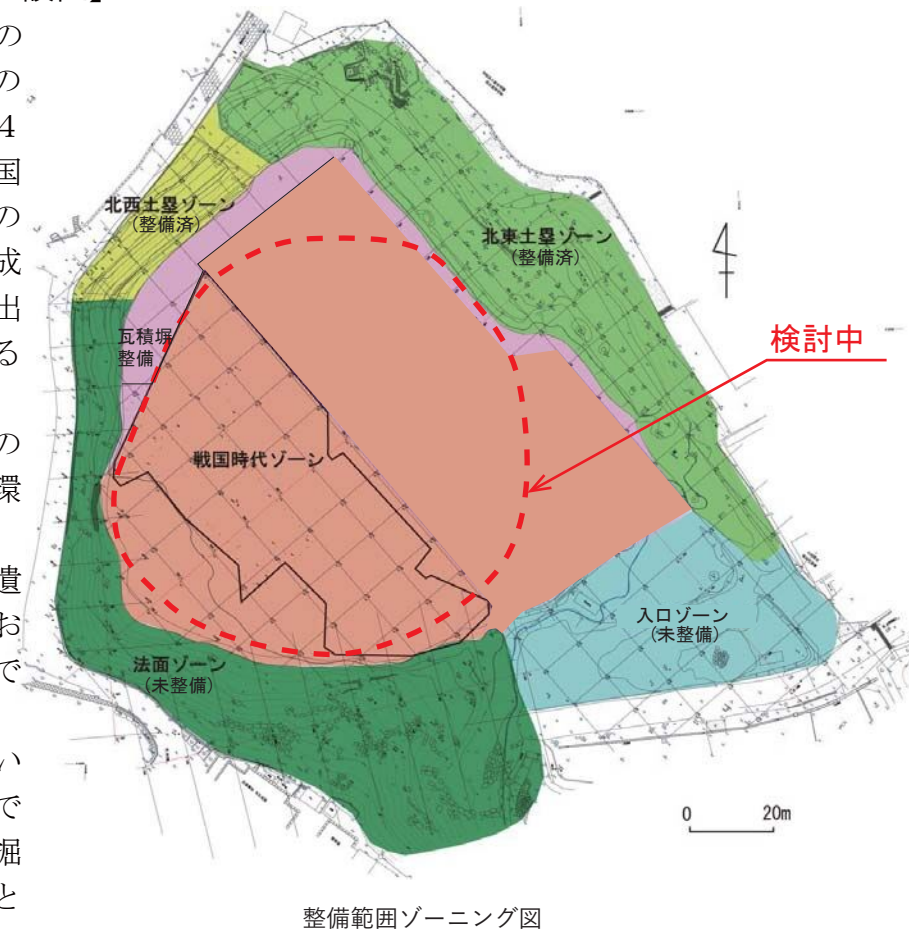
e. 小田原城跡内でも広さのある平場（広場）があることを踏まえ、整備された遺構の見学のみでなく、多様な史跡の活用が可能な場となるよう配慮する。

③令和4年度【戦国期整備検討部会の設置】

調査・整備委員会において、戦国期の整備について専門家の意見を聞くための部会を設置することが提案され、令和4年度に「史跡小田原城跡御用米曲輪戦国期整備検討部会」が発足した。戦国期の整備検討を重ねた結果、全体の空間構成を明らかにする必要があるとの意見が出され、北側で追加の発掘調査を実施することとなった。

令和4年度より基礎調査として遺構の精査、整備検討、地中レーダー探査、環境調査、石材保存処理試験を実施した。令和5年度の発掘調査では、戦国期の遺構が展開することが確認され、部会において御用米曲輪の平場面全体を戦国期で整備する方針が提案された。

令和6年度の調査・整備委員会において、御用米曲輪の平場面全体を戦国期で整備する案が審議されたが、北側の発掘調査を進めるということで結論は保留となった。令和7年度は引き続き戦国期の空間構成を把握するための発掘調査・整備検討を継続している。



整備範囲ゾーニング図

2. 現在の検討経過

部会で複数案を検討し、下記の整備案に基づき詳細検討を進めている。

遺構が確認されている範囲と連続性が想定できる範囲での整備案

- 【メリット】
- 調査成果の中で連続性が想定できる範囲を復元的に整備することにより、遺構のみの表現と比較して当時の空間を分かりやすく表現することができる。
- 【デメリット】
- 想定した範囲の根拠や判断基準の設定、説明に検討を要する。
 - 不明な箇所が中途半端に残る。

戦国期検討部会で遺構情報・整備手法について検討を継続している。
■令和7年度の検討事項

- ・ 建物の構成・平面形状の検討
- ・ 整備手法の検討 等

